

(報告事項)

第 1123 回経営委員会資料

平成 22 年 7 月 27 日

平成22年度第 3 回
視聴者のみなさまと語る会
(NHK キャンパス・ミーティング@関西学院大学)
開催報告書
(平成22年 5 月 19 日)

<会合の概要>

「経営委員会による受信者意見聴取」の平成22年度第3回目は、NHKが3か年経営計画で目標として掲げている接触者率の向上を図るにあたり、接触者率の低い10代・20代の視聴者の意向を把握したいことなどから、「企画型」として対象を学生に限定し関西学院大学で実施した。当日は、公募により参加した34人の学生を4つのグループに分け、各グループにNHKの役員（経営委員、理事）が2人ずつ加わり、「NHKの接触者率」「受信料」などのテーマについて意見を聴取した。

<会合の名称>

NHKキャンパス・ミーティング@関西学院大学
視聴者のみなさまと語る会～NHK経営委員とともに～

<会合日時>

平成22年5月19日（水） 午後5時から午後7時まで

<出席者>

- 【経営委員】井 原 理 代（委員）
大 滝 精 一（委員）
桑 野 和 泉（委員）
野 間 光輪子（委員）
- 【執行部】八 幡 恒 二（理事）
塚 田 祐 之（理事）
吉 国 浩 二（理事）
森 本 和 憲（神戸放送局長）
- 【視聴者】 公募による学生34名
- 【司 会】 佐伯真規アナウンサー（神戸放送局）

<会場>

関西学院会館（兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155）

<開催項目>

以下のとおり進行した。

- 1 開会あいさつ
- 2 経営委員による説明（協会の基本方針その他協会の運営に関する重要な事項について）
- 3 意見の聴取（グループディスカッション）
 - （1）NHKへの接触者率について
 - （2）受信料について
 - （3）どんなNHKであってほしいか
- 4 各グループの学生代表者による発表

5 自由質疑

6 閉会あいさつ

「視聴者のみなさまと語る会」終了後、制作局の福田貴美子チーフ・プロデューサーによる『トップランナー 制作の舞台裏』と題した講演を行った。

<概要・反響・評価>

◇テレビのお知らせのほか、ホームページとチラシで参加者の募集をしたところ、計59名の参加申し込みがあった。会場の収容力の範囲内であることや、できるだけ多くの学生の方々に参加いただきたいということから全員に案内を送付した。当日は、34名が来場・参加した。

◇会合は、経営委員による説明のあと、「NHKへの接触者率」「受信料」「どんなNHKであってほしいか」の3つのテーマについて、4つのグループに分かれグループディスカッション形式で進行し、最後に全体でテーマを設定しない自由質疑の時間を設けた。

◇当日も意向収集のアンケート調査を行い、参加者のうち、32名から回答があった。参加者の満足度については、「たいへん満足」あるいは「満足」と答えた人が31名、「ふつう」と答えた人が1名であった。

< 開催内容 >

(野間委員)

◆協会の基本方針・重要事項を説明

- 経営委員会の役割は、NHKの経営方針を議決することと、NHK執行部の職務の執行を監督することです。また、経営委員の中から監査委員が任命され、監査委員会は経営委員会を含む役員の職務執行を監査します。このように、平成20年4月1日の放送法の改正により、経営委員会の機能・権限が一層明確化されました。
- その権限を正しく行使するために、視聴者の皆さまのご意見を直接伺う「意見聴取」を行うことも放送法に定められました。視聴者の皆さまのご意見を伺って、経営委員会の運営に生かしていきたいと思えます。
- NHKでは、平成20年10月に平成21年度から23年度の3か年経営計画を公表しました。経営計画では、「いつでも、どこでも、もっと身近にNHK」をスローガンとして、「NHKと視聴者のみなさまをつなぐ2つの経営目標」を立てました。1つ目は、NHKへの接触者率を23年度末までに80%にすることです。接触者率とは、1週間に5分以上インターネットなども含めたNHKのメディアに接触した方の率です。60代以上の方々は90%以上ありますが、10代20代30代では60%程度にとどまっています。どうしたら若い人たちにNHKを見ていただけるのかを一生懸命考えています。2つ目は、受信料の支払率を23年度末までに75%、25年度末までに78%まで高めることです。

経営目標の実現のために具体的な9つの経営方針を立てました。

- ・方針1 視聴者のみなさまの信頼を高めるため組織風土改革に全力をあげます
- ・方針2 日本の課題、地球規模の課題に真正面から向きあいます
- ・方針3 放送・通信融合時代の新サービスで公共放送の役割を果たします
- ・方針4 地域を元気にするための拠点となります
- ・方針5 日本を、そしてアジアを、世界に伝えます
- ・方針6 円滑な完全デジタル化に向けて重点的に取り組みます
- ・方針7 構造改革を推し進め効率的な体制で受信料の価値をより大きくします
- ・方針8 受信料を公平に負担していただくための取り組みを強化します
- ・方針9 環境経営に着実に取り組みます

これら2つの経営目標、9つの経営方針を着実に遂行することで、平成24年度から受信料収入の10%を視聴者の皆さまに還元する計画です。経営委員会は、これらの計画が着実に実行されているか、その進捗よく状況を常に検証し、執行部を監督しています。

- 平成22年度の収支予算・事業計画について
 - ・平成22年度事業収入6,786億円のうち受信料収入は6,550億円で、21年度予算に対し、60億円増を見込んでいます。事業支出は、6,847億円です。地上テレビ放送の完全デジタル化のための追加経費などの影響により、収入から支出を差し引

いた事業収支差金は61億円不足の赤字予算となります。赤字分については、これまでの繰越金の一部で補てんします。地上テレビ放送の完全デジタル化に向けた設備の整備や放送会館等の整備のための建設費は790億円です。

- ・22年度末の受信料支払率は、73.4%を目指します。
 - ・来年2011年に迫った地上テレビ放送の完全デジタル化に向けた取り組みを継続して行い、『ニュース』『報道番組』をはじめ、『ドラマ』『娯楽番組』『ドキュメンタリー』『科学番組』などのほか、地域、防災、福祉などの問題について、視聴者の皆さんとともに考え、ともに作る番組やイベントに取り組みます。
 - ・テレビを軸としながらも、インターネットや携帯端末などへも公共放送としての確かな情報や魅力的なコンテンツをお届けします。一昨年12月にスタートしたNHKオンデマンドについても一層の充実を図ります。
 - ・NHKの事業支出のうち「国内放送番組の制作と送出」に事業支出全体の71.3%を充てています
- 22年度は3か年経営計画の2年目として、計画を達成するための取り組みを確実に進める大変重要な年です。経営委員会としても執行部とともにそれぞれの役割を全力で果たしていきたいと考えています。

<グループディスカッションの概要>

各グループには、以下のとおり経営委員と理事・神戸放送局長が参加した。

Aグループ

井原 理代 委員、塚田 祐之 理事

Bグループ

大滝 精一 委員、森本 和憲 神戸放送局長

Cグループ

桑野 和泉 委員、八幡 恒二 理事

Dグループ

野間 光輪子 委員、吉国 浩二 理事

《Aグループのディスカッションの概要》

第1のテーマ：NHKへの接触者率について

(井原委員)

テーマは3つです。1つ目は、経営計画の2目標の1つである接触者率をどうやったら高めていけるか、何か秘策があるかということ。2つ目は、受信料に支えられているので、その受信料についてのお考えをお聞きしたいということです。3つ目は、皆さんがNHKに対して期待したり考えたりしていることを伺いたいと思います。まず、「NHKの接触者率を3年後に80%に高めたい」ということについて伺います。60歳以上の方は90%以上が接触いただいているのですが、皆さんのような若い世代は60%に満たないぐらいしかないのが現実です。日ごろ民放でもよいのでどんな番組を見ることが多いのか、また、どんな理由でその番組を見ることが多いのかをお聞かせください。

【参加学生】

- ◇高校野球の放送をよく見えています。民放ではアルプススタンドの様子などが放送され、内容がバラエティーに富んでいておもしろいです。でもNHKは形式張っているところがあります。NHKには過去に放送された『NHK特集 江夏の21球』のようなドキュメンタリーを作ってほしいです。すばらしい作品が絶対できると思います。
- ◇ふだんあまりテレビは見ません。家に帰ってきてテレビをつけたときに見るぐらいで、おもしろいニュースやバラエティー番組があれば見ます。以前は、『その時歴史が動いた』など見ていましたが、NHKは遊び心がある番組が少なくてまじめな番組が多い。ちょっと抜きがない感じがします。それで民放に走ってしまう傾向になります。
- ◇スポーツ観戦が好きなので野球中継とかスポーツニュースは欠かさず毎日見えています。NHKの高校野球の中継は、枠がだいたい決められていて民放と比べると応用がないという印象です。選手の家庭のことなどあまり詳しく紹介されませんが、普段どんな人物なのかなども知りたいと思います。

(塚田理事)

私は30年間報道番組に携わってきました。『江夏の21球』の途中経過も知っておりますが、特集番組と違い野球中継の場合、NHKは試合そのものを伝えるという感じです。しかし、視聴者の立場からすれば、その選手の背景などいろいろなことを知りたいということです。

【参加学生】

ふだんあまりテレビは見ないのですが、学校やアルバイトとかで疲れて帰ってきたときにニュースとか硬い番組を見るよりは、リフレッシュできるようなバラエティーやドラマを見る機会が多いです。また、私は歴史に興味があり『龍馬伝』は見ております。歴史の番組は結構充実していると思いますが、NHKはドラマの種類が少ないという印象です。もう少し充実したほうが、若い世代の人たちはもっと見てくれるのではないかと思います。

(井原委員)

火曜日の夜10時には、新しい傾向のドラマにも取り組み始めていますが、まだまだ不十分といった感じでしょうか。

(塚田理事)

こちらだと関西テレビでしょうか。月曜日の夜9時に東京ですとフジテレビが、いわゆるトレンドドラマを放送していますが、どんなドラマを見たいですか。

【参加学生】

◇もっと若い人に見てもらうには、もう少し旬の俳優を起用したほうが、見る人が増えるのではないかと思います。

◇トレンドドラマもよいですし、もう少し軽い気持で見られるようなドラマが見たいです。

◇私もNHKに対しては、すごく硬いとかきちんとしているイメージがあります。どうしても帰宅して、テレビをつけたときに民放のほうを選びがちになります。民放は画面も鮮やかで派手だし、テンポがよくておもしろい内容が多いです。

◇民放は旬の俳優がたくさん出演しているというイメージであり、実はあまりNHKは見ません。NHKは逆のイメージを取り払うことが大事なのではないかと思います。

(井原委員)

NHKを見ない理由もあわせて、ふだんどんな番組をご覧になっているかお話していただけますか。

【参加学生】

◇私は茶道をしているので教育テレビで茶道の番組が放送されているときは、毎週見ました。また、第2外国語のフランス語講義を受けていたときもフランス語の番組を見ると現地の景色もたくさん出てきて楽しかった。勉強したいことがあるとNHKを見ます。でも気分転換をしたいときやりフレッシュしたいときは、民放を見てしまいます。笑うことで気分転換になるし、NHKにはお笑い番組が少ないと思います。

◇僕は、中学生まで海外に住んでいました。海外で放送される日本のテレビ番組は、NHKとBSしかなかったので結構見ていました。それだけで十分、日本の情報や日本がどうなっているのかがわかりました。そう考えると、やっぱりNHKは見ていて飽きない番組を放送していると思います。ただ日本に住むようになってからは、情報は普通に入ってくるので、やっぱり自分が見ていておもしろいと思うような民放のバラエティー番組を見るほうが多くなりました。

(井原委員)

海外で見ていたような情報を国民の皆さんに提供することはNHKの大事な役割でもあります。どうしてもそういったところが硬いという印象になるのかもしれませんが。

【参加学生】

私の住まいは山の中で、NHKラジオしか受信できないためよく聴いています。ほんとうに内容が濃くて暮らしに役立つ情報がたくさんあり、先日も講義でスピーチの題材にさせていただきました。しかし、私も街中に住んでいれば、私の友人やまわりの人のようにNHKをあまり聴かないと思います。理由は、音楽番組が少なく若い人が聞きたい音楽が

あまり流れません。NHKは、深く突き詰めていく能力やノウハウを番組に役立てたらよいのではないかと思います。

また、火曜日10時のドラマ『離婚同居』がとてもおもしろく、阿部サダヲさんと佐藤江梨子さんという旬の俳優が出演していて、妥協せず突き詰めて作っているというイメージがあります。NHKは硬い雰囲気は生かして、医療系や刑事もののドラマを制作すれば、すごく期待してもっと見てもらえるとと思います。

(井原委員)

皆さんのさまざまなご意見をどうやって実現したらよいかということになりそうです。

(塚田理事)

皆さんから疲れて帰宅して気分転換をしたい時にテレビを見るというご意見が出されました。そうした環境のなかでテレビだけではなくNHKは携帯とかインターネットとかいろいろ展開していますが、そうしたメディアとの接触はどうなのでしょう。

【参加学生】

昔は、テレビはすごく高級品だったけれども今は自分の部屋にもテレビがあります。インターネットなどの媒体もありますが、テレビはBGM化しているような気がします。やはりテレビを見ようと思えるような番組を作ることが大事だと思います。

(井原委員)

私は大学に勤めておりましたので、夜までゼミを長びいて開いていると学生から「もうやめてください。家に帰ってドラマを見ないといけないから」と言われるぐらいにトレンドードラマが話題になっていたことがあります。今はそういったことはあまりないのですか。

【参加学生】

あります。ただ民放のドラマが多いです。ケーブルテレビで放送している海外ドラマなどもあります。今だったら『ゴシップガール』がはやっています。ほかに『THE OC』は、雑誌でも取り上げられていて、ファッションに興味があるような若い女の子は、みんな録画しており学校でも話題になっています。

(井原委員)

NHKにもそういったドラマが出てくると皆さんが見てくれるのかもしれませんが。

【参加学生】

◇私の周りでは歴史もののドラマを見ている人も多いです。『龍馬伝』は、旬な俳優が多く出演しています。人に薦められて見始めると最初はちょっと硬いイメージがありましたが、勉強にもなりました。すごくおもしろかったという人もたくさんいます。

◇1話目を見逃すともういいかなと思ってしまいます。まずは見てもらうことで、案外おもしろいと思うこともあるのでもう少し宣伝をしたほうがいいと思います。

(井原委員)

最近、番組の宣伝をもっとしたほうがよいというお声と少し宣伝し過ぎではないかという両方のご意見を聞くのですが、宣伝の方法が悪いのでしょうか。

(塚田理事)

皆さんは、NHKの番組情報はどこから入手されますか。番組と番組の隙間のスポットで見てみたいと思うことはありますか。あるいは、インターネットや新聞などでしょうか。

【参加学生】

◇親がテレビをつけるので、たまたまいっしょに見ていておもしろいなと思ってそのまま見たりすることはあります。でもきっかけは私ではありません。

◇『冬のソナタ』のように放送4、5回目からロコミでどんどん広がったというケースもあります。韓流ブームの火付け役になったのは『冬のソナタ』をいち早く韓国から購入したNHKがきっかけだと思います。

◇民放はどうしてもCMを入れなくてはいけないのですが、NHKは話のつながりが途絶えず集中できます。最後まで見ることができるのはメリットだと思います。

(井原委員)

皆さんは実際には1週間にNHKになんらかの形で5分間以上接触していますか。

【参加学生】

◇9時のニュースとかは見ていますが、毎日定期的に見ているわけではありません。

◇ニュースぐらいしか見ていません。

(井原委員)

NHKのニュースの信頼感がありますか。

【参加学生】

◇一番信頼感があります。

◇速報など一番信頼があると思います。

◇地震や台風が起きたときには、やっぱり最初に見るのはNHKです。ほかの番組を中止してまで地震や台風情報を放送するのは民放にはできないことで、自然災害があったらやっぱりNHKを先に見ます。こういう部分はNHKのよいところだと思います。

第2のテーマ：受信料について

(井原委員)

災害放送やニュースをきちんと公正・公平に国民・視聴者の皆さんにお伝えするために財源が何かに偏っていたのでは、公正で公平な情報提供ができないことがあります。受信料というのは、私たちにとって公共放送を守るために大切なものです。現在、受信料の支払率は72.2%です。

(塚田理事)

約4人のうち3人は受信料をお支払いいただいているということになります。

(井原委員)

公平にご負担いただきたいので、これを改善していきたいというのが願いです。さて受信料額は、地上契約で1か月1,345円で、衛星契約はこれに945円加算されます。この金額については、高いと思いますか。それとも安いと思いますか、適当だと思いますか。

【参加学生】

やっぱりNHKを見ていない方からすれば、なんでそんなに払わなくてはいけないのかと思う方もいると思います。

(井原委員)

地震や災害の際に情報をきちんと提供する役目もあり、それを支えていただく環境作りという考え方もあります。やはりどうしても見ていないのに払うのはなぜなのかという考え方になりますか。

【参加学生】

私は、公平に受信料を負担するという考え方を今知りました。NHK職員の給与や機材にすごく経費がかかるので、そのために受信料を払っているというイメージを持っていました。もっと素直に公平な負担を伝えることができれば、支払率が上がるのではないかと思います。空気のような存在になっているので、もう少し強く訴えてもよいと思います。

(井原委員)

民主主義の基本というのは、等しく国民、市民が公正な情報を得て、それに基づき自分で判断することだと思います。その情報を提供することは、いわば国民的な社会基盤なのではないかと思います。その社会基盤を国民の皆さんで支えるのが受信料制度だとご理解いただきたいと思います。

【参加学生】

それが伝わっていないというのが現状だと思います。また民放のチャンネルが多くあり同じように見ているのになぜNHKだけは支払わなくてはいけないのかという部分は、多少ならずともあると思います。

(井原委員)

海外の国際放送で、生活に安心を与えるような情報や日本の状況とかを見て、今話しましたような役目をNHKは持っていると思われませんか。

【参加学生】

金額で払ってもらえるようなものではないと思います。500円だったとしても一人暮らしの人とか払えないと思います。金額ではなくて今話されたようなことが一般に知られてないのだと思います。正しいことを知らないままだったら、たぶんほとんどの人が見ていないのに払うのはおかしいという考え方を持ったと思います。私もさっきまでそう思っていました。

(井原委員)

受信料の性質をきちんと皆さんにご理解いただく必要があるということですね。

【参加学生】

◇民放のワイドショーでNHKはこれから受信料を支払っていない方を追いかけてまで徴収するといった報道がされていました。そのとき民放のコメンテーターが、NHKはここまでするのかと批判的な発言をしていました。今お聞きしたような公正・公平な情報を提供するなどといったことはまったく触れていませんでした。大事なことは伝えなくては、誤解や勘違いを招いてしまうと思います。

◇受信料を支払っていない人は、ほんとうにNHKを見ていない人が多いと思います。例えば、各家庭にNHKの番組表や冊子を無料で配布して興味を持ってもらうというのはどうでしょうか。グッズなんかを配ると問題なので、番組の冊子を無料で配布し促進していくのがいいと思います。受信料には強制力がなく、法律的な義務ではないですよ。

(塚田理事)

規定はありますが、罰則はないです。罰則を設けると受信料の性格を大きく変えるのではないかと思います。民放で取り上げられていたのは、いろいろとご説明してもご理解いただけない場合は、未払いの部分を請求させていただくということを今始めているという話です。

(井原委員)

それでは、受信料は高いと思われませんか。

【参加学生】

お金の問題ではないと思います。NHKがいいと思ったら当然受信料も払うわけです。最近、天気は携帯でよく調べます。情報を入手するには、いろいろメディアがあります。しかし、NHKが公正な情報を提供するというコンセプトをしっかりと伝えていけば絶対に払う人は増えると思います。僕もそれを聞いて将来一人暮らしや家庭をもったときには、受信料を払おうと思いました。もしこの話を伺っていなければ絶対に払っていません。

(井原委員)

やはり受信料の性格や公共放送の役割をきちんとあわせて、ご説明しご理解いただくことが大事だと受け止めました。

(塚田理事)

公平公正な情報を伝えるために、受信料で支えていただきたいということをPRしているつもりですが、どうしたら伝わりますか。

【参加学生】

◇民放と比べるとプロモーションがちょっと弱いと思います。

◇雑誌の番組情報などでも民放に比べてNHKの番組情報は少ないと思います。インターネットを見てもmixiやYahoo!のヘッドラインニュースにも民放のドラマの主演は誰とかがっているのは結構書かれています。NHKに関しては大河ドラマ以外で見たことがありません。支払率を高めるには、自分がNHKに触れているという意識を高めないとだめだと思います。

◇番組情報とか受信料のPRの冊子を配ると、なんだか押しつけがましくて、たぶんそのまま見ない人もたくさんいると思います。だから私はそういうものを送ってもあまり意味がないと思います。自分がすごくNHKを利用しているという意識が高まることが一番大切だと思います。私と同じ世代の人にこういう番組を知っているかと聞いても知らないと答える人が多く、やはり宣伝不足だと思います。

(井原委員)

とにかく接触して、知っていただくことが大事だと思っています。そのためには、NHKのテレビの中でPRしても見ていないわけですから、別の形でPRしなくてはだめだと

ということですね。

【参加学生】

◇NHKの番組を見ていない人はそもそもNHKのチャンネル自体にあわせない。テレビ雑誌とかにも情報が少ないと見る人も少ないのかなと思ってしまいます。

◇民放だと、同じ局で放送している別のバラエティー番組などに番組宣伝で出演しています。また雑誌の表紙を飾ったり、「今、この番組に出演しています」というクレジットが書いてあったりします。そういったことも効果的なのではないかと思います。

(井原委員)

以前に比べればNHKも番組宣伝を放送の中で行なうようになりました。ご覧になったことはありますか。

【参加学生】

あります。たまたま夜中に民放が一斉に番組が終わったあと、NHKはどんな放送しているかなと見ていたら、BSで番組宣伝をしていました。ショパン生誕200年を祝うピアノの名曲コンサートの内容でした。ぜひ見たいと思って録画して見ました。

(井原委員)

やっぱり皆さんに知っていただく広報活動が必要なのですね。

(塚田理事)

たまたまではなく、ちゃんと見ていただける方法が必要ですね。

第3のテーマ：どんなNHKであってほしいか

【参加学生】

私は、硬いというイメージを全部取り払う必要はないと思います。これを取り払うと民放と同じようになってしまいNHKの価値がなくなってしまうと思います。それを残しつつ、もう少し親しみやすいNHKを目指してほしいと思います。

(井原委員)

硬くはないけれど親しみやすい。すごく難しいけれども私も含め執行部もよく検討していることですが、なかなか具体的な像にならないことでもあります。

(塚田理事)

よく言われることなのですが、小さいころは『おかあさんといっしょ』を見ていたけれど小学校に入学するとしばらくNHKから離れていく傾向があります。これがどうしてなのだろうかと思っています。

(井原委員)

『おかあさんといっしょ』は、「硬いけれど親しみやすい」というカテゴリに入るのかもしれないですね。

【参加学生】

◇ハイビジョンでどの局よりも一番に最新の映画を取り上げてみてはどうでしょうか。

例えば、『タイタニック』はどこの民放が最初に放送するかというのが話題になったことがあります。視聴率もたいへん高かったです。どんなことでもよいのですが最初にすることがものすごいPRになると思います。

◇情報や知識を入手するときはテレビに頼っていません。テレビは時間がかかります。

どんな出来事が起きたのかを調べるには、インターネットや本や文献などを読んだら一瞬にしてわかります。NHKには独特のよさがあり、奥深さや歴史の壮大さとかがわかるような番組はこれからも大事にしてほしいです。それからNHKは公正なニュースを提供していると僕は信じています。その信念だけは貫き通していただけたら、僕はそれでいいと思っています。たまにはちょっと抜いた感じのものも必要だと思いますが、それほど崩す必要はないと思います。

(井原委員)

「抜き」というのは、若い方にとってはおしゃれな感じなのかもしれませんね。

【参加学生】

◇茶道やピアノなど趣味のことをさらに広げてくれるようなものをNHKに期待します。

『趣味悠々』などで再放送しすぎじゃないかとはじめは思っていたのですが、1回見逃したとき再放送もやっぱりほしいと思いました。だから親しみやすさを重視しすぎて趣味の番組を減らされるのはちょっと困ります。

◇朝の連続テレビ小説は、土曜日にまとめて再放送しているので平日の朝が忙しい人にとっては、土曜日の時間のあるときに見ることができていいと思います。大河ドラマも違う時間帯で再放送されています。民放だと新しい番組は、すぐには再放送にならないのですごくいいと思います。

◇教育テレビは子どものためというイメージがありますが、最近、トータス松本さんの影響で『みつけた！』という番組を見ました。普通なら絶対に見ないと思うのですが、意外なキャスティングがきっかけで僕らの年代が見てもおもしろいんだと思えることもあります。もう少し大人向けにするとか、大人と子どもが楽しめる放送にしてもいいと思います。

◇NHKはとことんコアなものを放送する番組の枠を作ってもいいかなと思います。僕は野球が好きなので、野球選手を毎週1人追いかけるとかどうでしょうか。また、ドキュメンタリーにしてもNHKでは長く時間をとってもらえるので、そういったところは生かしてもらいたいです。

◇すごく女性っぽいイメージがあります。NHKは空気のような存在になっていると思います。でも今の時代は、女性でも前に出てきて社会に進出しています。やっぱりNHK自体もそういうイメージを作っていかれたほうがいいのではないかと思います。

◇NHKはレベルが高くコアですごくいい番組を作っていますが、放送する時間帯に問題があるかもしれません。私たちが帰宅する10時とか11時には、民放は私たちをターゲットにして見たくなるような番組を放送しています。NHKがドキュメンタリーや田舎を訪ねたりするような番組を放送されても潜在的に見なくなってしまいます。

(井原委員)

NHKは、空気のようなお話がありました。こんなにやっているんだぞというようなアピールをしない、もしかしたら奥ゆかしいところがあるのでしょうか。

【参加学生】

- ◇たまにNHKを見ると言葉づかいがとても硬い印象があります。ナレーションの人のしゃべり方もほんとうに硬いです。そういう部分でみんなの意識のなかにNHKは硬いというイメージができていていると思います。たまには僕らの世代に人気がある人が起用されたりすると、ファンの人たちもちょっと見てみようかなと思うのではないのでしょうか。
- ◇少しアナウンスの勉強をしているのですが、やっぱりNHKを参考にしています。きれいな言葉で癖もなく、日本の軸になっていると思います。番組によっては、やわらかい言葉づかいをするものも必要ですが、ニュースはきちんとしてほしいと思います。硬いイメージを残しつつも親しみやすい番組をミックスして扱ってほしいと思います。

(塚田理事)

NHKネットクラブは、例えば、会員登録してこういう番組が見たいと登録しておく、「いついつこういう番組が放送されます」というお知らせをメールでお送りするサービスを行っていますので活用していただければと思います。

(井原委員)

皆さんは、よくご覧いただいていると強く思いました。皆さんの意見を生かせるように理事の方々を激励していきたいと思います。

《Bグループのディスカッションの概要》

第1のテーマ：NHKへの接触者率について

(大滝委員)

はじめに皆さんは日ごろどんな番組をご覧になっているかお聞きします。これはNHKに限らず民放でもかまいません。

【参加学生】

- ◇テレビ番組が好きで何でも見っていますが、よく見るのはバラエティー番組やクイズ番組です。親とかといっしょに見ることで会話も増えます。特にクイズ番組は家族団らんで見ることができると思います。
- ◇あまりテレビを家で見る時間がないので、朝、ニュース番組にバラエティー要素が取り込まれている『DON!』や『スッキリ!!』などを見ています。母が、『ER』が好きなのでいっしょに見ています。
- ◇やはりバラエティー番組やドラマが多いです。NHKでは『サラリーマンNEO』や『着信御礼！ケータイ大喜利』のほかは、ドラマを見えています。
- ◇見られるとしたら朝の番組や深夜番組です。朝ごはんを食べるときには母がいつもNH

Kの朝ドラを見ているので、いっしょに見ています。

◇NHKではよく国会中継とかドキュメンタリーを見ます。昔は、『生きもの地球紀行』を見ていました。周りの人に聞いたら『NHKスペシャル 激流中国』がよかったという人もいました。なんの飾りもなく知らない地域を撮影して伝えるという部分が好きです。あとは映画もよく見えています。

◇あまり家にいないのですが、朝のニュース番組や深夜番組を見るほうです。父がNHKをずっと見ているのでニュース番組は、よく見ます。深夜番組では『着信御礼！ケータイ大喜利』が好きで、高校生のとき、友達といっしょに投稿して「選ばれた、選ばれてない」ということはありました。またこの会に参加するために、NHKの先輩に聞いてドキュメンタリーを見えています。

◇大学に入学してテレビを見る時間が減りました。休みの日には映画が好きなのでWOWOWをずっと見えています。今はニュースの勉強をしているので『週刊こどもニュース』を録画して見えています。また、『めざせ!会社の星』は、おもしろいなと思って見る場合があります。普段は10チャンネルのニュースはよく見えています。

◇私は、皆さんと同年代ぐらいの子どもをもつ大学院生です。よくテレビを見えています。ただ、チャンネル権は全部奪われているので子どもが見るバラエティーや歌番組、韓国ドラマを見えています。NHKの番組では、『紅白歌合戦』、『龍馬伝』やニュース番組は見えています。最近感銘を受けたのは『ハーバード白熱教室』です。ハーバードの学生何百人という相手の授業で、授業の中身も学生の態度も勉強になります。やはり日本人とは違って、ある種の感動です。ああいう番組はぜひ続けていただきたいと思います。

(大滝委員)

NHKに限らずいろいろな番組をたくさんご覧になっていることを知ることができました。皆さんの中であまりNHKの番組を見ないという方がいらっしゃいましたが、その理由は何でしょうか。

【参加学生】

国会中継で言い合っているのは好きですけど、民放では他の番組を放送している。夜の時間だと民放はバラエティーとか放送していますが、NHKはニュースばかり放送しています。ニュースを見たいときもあるけれど、そうじゃないときは、民放にチャンネルを変えてしまいます。番組を見る時間帯に見たい番組がないという問題があります。

(大滝委員)

ある時間の中で、いろんなバラエティー要素のある番組を見たいということでしょうか。

(森本局長)

総合テレビと教育テレビのことですか。衛星放送はご覧になられていますか。

【参加学生】

何か楽しめるような番組が見たいというのはあります。衛星放送は見えていません。

(森本局長)

NHKにも衛星放送を含めて、もう少しバラエティー要素のある番組もあるにはありま

す。

【参加学生】

◇僕は一人暮らしで、WOWOWとかも見ると料金が重なって生活も厳しくなるので、たぶん今の大学生だとNHKは総合テレビと教育テレビのみを見る学生が多いと思います。個人としては教育よりも総合テレビのほうをよく見ます。

◇昔は、子どもが『天才てれびくん』をよく見ていました。最近は、バラエティー番組を見るときでもNHKではなく民放のほうを選んでいるようです。それはたぶん砕けているからだと思います。NHKの番組は安心感があり非常に管理されてて危なげがないんです。民放は危なっかしいけれど、そのかわりにおもしろいのだと思います。

◇NHKの番組は、『天才てれびくん』のような子ども向けの番組と私たちの世代を飛び越えた60代ぐらいの方向けの番組といったように対象の年齢層が2つに分かれていると思います。例えば、民放のバラエティー番組だと笑える機会があるけれど、NHKの番組だとなかなか笑えません。ニュースを見るならばNHKは魅力があります。アナウンサーはカメラをずっと見て下を向くこともまったくないし、すごく徹底していると思いますが、家にいるときはゆったり笑いがほしいという思いがあります。

(森本局長)

カメラをずっと見ているのは、プロンプターといってそこに原稿が見える仕組みがあります。だから一生懸命原稿を覚えてしゃべっているというわけではないんです。

(大滝委員)

つまり下をむいて原稿を読むということをしなくていいんです。

【参加学生】

◇知り合いのアナウンサーの方から、どれだけ目をきょろきょろせず、棒読みにならずに原稿を読めるようにしているかという話を聞いたことがあります。

◇父から、女の人がおもしろい体操をしている番組を録画して見せてもらいました。おもしろかったのですが、背景も真っ白でもう少し視覚的に明るい感じにしたら見ようかなと思うのにと思いました。堅苦しいイメージがあるのでそれを無くしていけばいいのではないかと思います。

◇帰宅して音がほしいと思ってテレビをつけます。でもNHKの番組はやっぱり高齢者向けのものがとても多いので静かなイメージです。民放だと騒がしく音があるので安心して見られます。それとNHKの番組は、集中しないと途中で意味がわからなくなってしまいます。民放だと途中から見ても大抵の意味が分かり、CMがあるのでその間に何かをできるのでNHKより民放のほうをよく見ます。

(大滝委員)

次に放送以外で携帯とかパソコンなどのメディアへの接触のしかたや、こんなサービスをしてほしいというような希望、また接触者率を上げるためにはこんなことをしてみたらいいのではないかとといった提案など普段から考えていることをお話いただければと思います。

【参加学生】

◇NHKの番組宣伝は、形式的でちょっと硬いと思います。最近は大いぶ砕けてきているとは思いますが、民放と比べるとフランクさがないと思います。接触が少ない分、番組を知る機会というのが民放に比べて少ないと思います。民放の場合は、ニュース番組のときにもエンターテインメントコーナーで次のドラマの紹介があったりします。

◇私は、NHKを見るときは基本的に知識を得たり勉強のために見たりすることが多いです。『週刊こどもニュース』は、セットもキャストも明るくてとてもおもしろかったのですが、高校生のとき見ていた数学や英語、歴史の番組は、セットも色味が少なかった。講師の方もお年をめされていたのでたまに聞き取りづらいところもありました。新しくはじまる科学番組の番組宣伝は、すごくおもしろかったです。

◇やはり番組宣伝が少ないと思います。『着信御礼！ケータイ大喜利』は友達の紹介で番組の存在を知りました。民放ですと梅田に行けば、看板に挟まれたサンドウィッチマンが「次のドラマはこれをやります」と目を引きます。NHKは知る機会が少ないので、インターネットで何か違うサイトの広告が出てくるような仕組みを考えてみてはどうでしょうか。また、たまにNHKを見るとまじめにやっているときのミスとかが一番おもしろいです。

(森本局長)

かつては他のメディアで番組を紹介する機会は少なかった。自分のテレビやラジオを使ってPRを完結すればいいという考えでした。最近では、例えば『ニュースKOB E発』の地域番組で、来週はスタジオから外に出て宝塚と伊丹、尼崎で放送しようと考えていますが、その宣伝をバスの吊り広告や駅のポスター掲出など工夫をしているところです。

【参加学生】

接触者率を上げるためには、例えば『龍馬伝』でいえば、時代劇だとしても若い世代に人気のある宮崎あおいさんとかが出演していたら「この人好きだから見よう」と思う。そういう広がりがあると思います。

(大滝委員)

若い人たちにアピールできるような出演者にしたらいいのではないかという意見ですね。

(森本局長)

『龍馬伝』の福山雅治さんのポスターは、たいへん人気があります。

(大滝委員)

それでは、『3-Screens』などについても、「もっとこんな工夫をしたら接触者率が上がり、若い人たちも見るといいんじゃないか」などの提案やアイデアを持っている方はいませんか。

【参加学生】

◇携帯やパソコンにホームページぐらいはたぶんあるだろうと思っていましたが、特に携帯でやっていること自体をよく知りませんでした。

(森本局長)

もっと宣伝しなければいけないですね。

【参加学生】

◇きょう配られた資料を見て初めて知りました。

◇NHKオンデマンドについてもきょう初めて知りました。そういうサービスが今までもほしかったと思っていました。やっていること自体はすごくいいと思うのですが、それを知らないということはもったいないです。ちなみに携帯では何をされているんですか。
(森本局長)

携帯でもいろいろなサービスを行なっています。例えば、新聞のテレビ・ラジオ欄を見なくても今、NHKでどんな番組を放送しているのかがわかる情報もあります。また神戸放送局では、アナウンサーによるブログを公開していて、放送で紹介できなかった情報なども掲載しています。

【参加学生】

テレビの補助的な役割を担っていますね。視聴者参加できるような何かはないのですか。
(森本局長)

地方局では、まだ視聴者の皆さんに参加していただいて受け止めるほどのパワーがないため、これからの課題だと思っています。デジタルでは双方向はひとつのポイントでもあります。「ほんとうに必要だ」「あったほうがいいよ」といった声は真摯（しんし）に受け止めて考えていきたいと思っています。

【参加学生】

そういう携帯サイトがあることも知らなかった。例えば iPhone だとアプリで産経新聞が読めるサービスがあります。誰でも知ることができる状況を作ること大切だと思います。

第2のテーマ：受信料について

(大滝委員)

次に受信料の話です。3年後に支払率を75%にするという目標を掲げています。できるだけ受信料の公平負担をしていただけるように進めていますが、皆さんからみてNHKの受信料は高いと思いますか、それとも安いと思いますか。またその理由は何でしょうか。

【参加学生】

スタッフの方が自宅に受信料の支払いのお願いにやって来られたのですが、空気が読めていないんです。僕が部活に出かけるときに訪問され、「これを書いてくれますか」と言われて書いたのはいいんですが、「初回の料金をお願いします」と言われました。お金がかかるし最初から説明してほしいです。そのとき、「これから部活に出かけるんで後日、部活が忙しくて家にいないので夏過ぎぐらいに来てもらっていいですか」とお願いしました。「わかりました」と言って帰られたんですが、3日後にはまた別の方が来られました。支払いはちゃんとしますが、内部で申し送りして相手の都合を聞いてから来てほしいと思います。それと訪問されていきなりいくらと言われても困りますし、この中の人も月々の料金をほ

とんどわかっていないんじゃないでしょうか。

(大滝委員)

地上契約で月に1,345円です。衛星料金はそれにプラス945円で、2,290円になります。

【参加学生】

わかりにくいので、その辺もしっかりしてほしいなと思います。

(森本局長)

こちらのほうが少し怠けている部分があったかもしれません。長い間ずっと料金が同じなのでNHKとしてはもうわかっていたるものだと勝手に思い込んでいる部分があるかもしれません。おっしゃるように「大学生になって初めて払うのだから、いくらかは知らない」と言われるのは、そのとおりかもしれません。たいへん貴重な意見だと思います。現場のほうでも考えてもらいます。

【参加学生】

一人暮らしをしているので受信料を集めに来る方にどう対応するか警戒してしまいます。大学へ入ると宗教の勧誘が多いとか言われていますし、マンション内を順番に回っている人がいるというのはわかっていたので、「NHKです」って言われて出たのですが、はじめはすごく不安でした。その方は、NHKの尼崎のほうから来ていますと説明してくださったのですが、クレジットカードも使わなくてはならないし契約書も書いてしまったものですから親から確認をしてもらいました。どうかして改善してもらいたいです。

(森本局長)

お客さまに尋ねられたら、身分証明書をすぐに見せるように指導しています。何もなくてNHKだと言われても、ほんとうにそうなのかなと思うと思います。聞かれたら、その人間が間違いなくNHKの職員なり、関係者であることをわからせるようなものを持っています。

【参加学生】

そういったことをPRしていただけると、「見せてもらったから大丈夫なんだ」と安心できると思います。

(大滝委員)

なるほど。私でも怖いという気持はわかります。

【参加学生】

◇WOWOWに加入していて衛星料金より少し高いですが、そのぶんかなりの量の映画を24時間見ることができます。もっと映画を放送してくれると映画館に行くより安いので、受信料も高くないと感じられると思います。『龍馬伝』は、映画に関わっているスタッフも制作に携わっていると聞いて見えています。

◇衛星料金っていうのは、BS2を見ている人は全員ちゃんと支払う形になっているんですか。料金徴収に来られたときに見ていませんと言ったら、払わなくてもいいという話を聞いたことがあるのですか、どうなのでしょう。

(森本局長)

基本的に受信料というのは、テレビを設置されている方で地上波を見ることができる場合には地上契約料金、衛星放送も含めて見ることができる場合には衛星料金というのを
お支払いいただくという約束ごとになっています。しかし、なかには、今お話しいただいたような方がいないとは言えません。繰り返しお支払いいただけるよう努力を続けています。

(大滝委員)

今の質問は、公平に受信料をご負担いただいているのかという問題でもあります。実際には、支払率が今 72、73%ぐらいなので残りの3割ぐらいの方は実は支払っていただけて
いません。こういう状況がこれからも続けば、公平にみんなで負担していこうという趣旨
から反してしまいます。そのため支払率を目標に掲げ、できるだけ皆さんにきちんとお支
払いいただいて、公平でよい放送をきちんとしたインフラのもとで出していくという努力
を続けることが必要だと思っています。

(森本局長)

3割ぐらいの方からお支払いいただけないという現状ではありますが、これは支払いを
拒否されている場合だけではなく、年間 500 万人ぐらいの方が転居されていて、あ
るところで契約されていて別のところへ引越しされたときに契約が継続しない場合もあ
ります。いったん、契約が切れてまた新たに契約していただくまでの空白期間が生じるこ
ともあるわけです。

【参加学生】

そういう場合に役所との連携などはできないのでしょうか。例えば、住民票や年金の通
知、選挙のお知らせなど役所から連絡をいただくことはできないものなのですか。

(森本局長)

これはできる部分とできない部分があります。個人情報についていろいろと厳しくなっ
ていますので、役所が持っているすべての情報を私どもが入手して対応するということは
やはり難しいです。転居されたという情報については、こちらで捉えるようにし、あらた
めて契約をお願いするという努力はしております。

【参加学生】

受信料というのは、テレビ1台につき1,345円なののでしょうか。

(森本局長)

1世帯ごとです。

【参加学生】

引っ越して新しいテレビを買うまでしばらくテレビがなかったことがありました。その
ときにNHKの方が受信料のお願いに来られて、テレビを持っていないと答えました。テ
レビを見るのは、今は携帯電話くらいしかないと答えた瞬間に、「携帯受信できるのであれ
ば、受信料をお支払いいただきたいです」と言われてびっくりしました。携帯にも受信料
がかかると知らなかったなので、ほんとうにかかるのでしょうか。

(森本局長)

放送を受信できる設備を持っているということが受信料をお支払いいただく条件なので、ワンセグでも放送受信機となり法律上はお支払いいただくこととなります。ただ、テレビをお持ちでワンセグの分もあわせて2台分受信料をいただくわけではありません。もともと1世帯1契約で受信料をいただくという仕組みになっています。

(大滝委員)

それから皆さんにお配りしているパンフレットにも書いてありますが、家族割引という制度もあります。同一生計で離れて暮すご家族の場合、受信料の50%を割引します。

(森本局長)

実家があって、今一人で生活をされているのであれば、学生割引となり受信料は半額になります。私も単身赴任で東京に家があるので、東京で1契約分を支払ってこちらでは0.5契約で支払っています。

(大滝委員)

そういったディスカウントの仕組みもあるのですが、皆さんにまだ周知が行き届いていないかもしれません。

【参加学生】

それは契約する際には、まったく教えてくれないものなのですか。自分の年齢で家族がいないなんてことはなかなかないじゃないですか。その辺りはちゃんと説明してほしいと思います。「家族が契約されていたら50%オフなので、月々1,345円の50%オフになる」というのはちゃんと教えてほしいです。もしそのまま契約していたら、1,345円のままで半額は損をしているようなものじゃないですか。

(森本局長)

学生さんに受信契約をお願いするときは、基本的にはご説明しているつもりですが、たぶん行き届かないところもあって、新しく入居なさった方が、学生さんのなのか、あるいは大人っぽい顔をなさっているので会社勤めで一人で自活をはじめた方だと思ってお願いしたのかもしれない。今後はそのあたりも気をつけたいと思います。

第3のテーマ：どんなNHKであってほしいか

(大滝委員)

それでは最後のテーマです。NHKに対してどうあってほしいか。もっとこういうことをやってもらいたいだとか、NHKに対する希望などお聞かせください。

【参加学生】

◇『サラリーマンNEO』は斬新だと思いましたが、あえて若者をターゲットにして無理に番組を作るのではなく、もっとほかに若者が興味を持つようなNHKらしい番組を作ってほしいと思っています。『着信御礼！ケータイ大喜利』も好きですが、そういう番組

は民放でも見ることができます。若い人が見ても興味をもてるような、特に暗くなく前向きになれるようなドキュメンタリーを作ってほしいです。

- ◇NHKは、見ていて確かな情報で安全であるといったイメージがあります。大学の講義でも教材として使われるのもNHKの番組です。遊び心や若い世代に受け入れてもらえるような番組も必要だとは思いますが、信頼感のあるNHKであってほしいと思います。
- ◇『サラリーマンNEO』とか、最近ちょっと砕けた番組が多く、がんばっているなどという感じはします。何か今までのNHKらしさを抜け出そうとしているんだろうけれども何かあまり定まっていない感じがします。やるならば突き進んでほしいと思う一方で、今までの正しく確かな情報や安定感は大切にしてほしいです。例えば、『プロフェッショナル仕事の流儀』は、とてもいい番組だと周りの人からも言われていました。スキャンダルがあったことはわかりますが、できればいい番組は残してほしかったです。
- ◇普段あまりNHKは見ていないので、もう少し宣伝やPRをしてもらって、私たちの世代の人が見やすい環境を作ってほしいと思います。
- ◇『プロフェッショナル 仕事の流儀』が大好きでした。レーザーメスや花火の製造過程などおもしろかったので、ぜひ復活してほしいと思います。『生きもの地球紀行』も好きです。動物の番組は年齢層に関係なく見られますし、『ダーウィンが来た!』だけではなく、もっと番組数がほしいです。ドキュメンタリーでは、視聴率を気にせずマイナーなところも取り上げて、ありえないやり方でおもしろいと思っています。だからこそ受信料を払わなきゃいけないと思うわけです。スポーツでいえば未来のことも見据えてチャレンジできる唯一の放送局だと思っています。できなければ国営放送になったらいいんだと思います。受信料で運営しているよさを生かすには若い世代や中間世代が抜け落ちてしまう部分については民放に任せて、NHKはNHKのやり方でやってほしいと思います。
- ◇NHKの番組は結構好きなのですが、セットをもうちょっと明るくすればと思います。BGMもうるさくないものにしてほしいです。

《Cグループのディスカッションの概要》

第1のテーマ：NHKへの接触者率について

(桑野委員)

最初のテーマは、「NHKの接触者率を3年後に80%にするための提言」です。接触者率とは、1週間に5分以上NHKのメディアに接触した人のことです。現在は、平均で76.1%です。70代では96%、60代でも90%あります。ところが皆さんのような20代の方では59%しかないという現状があります。そこでまず「自分たちの暮らしの中でNHKをこんなふうにして見ている」とか、「民放のこんな番組を見ている」など、いろんなご意見をいただ

きたいと思います。日ごろ皆さんはどんな番組をご覧になっておられますか。

【参加学生】

- ◇就職のことも意識しているので、ふだんニュースをよく見えています。特に民放のニュースを見えています。
- ◇自分が疲れたときに笑顔になれるのでバラエティー番組を見えています。友達との話題で「昨日あの番組見た」とネタにもなります。NHKよりは民放の番組が中心になります。
- ◇バラエティー番組とドラマが多いです。それもやっぱり民放のものが多いです。民放のほうが気楽でゆるいものが多い感じがします。
- ◇NHKでいうと語学番組を見えています。バラエティー番組や海外を旅行するエンターテインメントとかも見ます。
- ◇大学が忙しくてテレビ自体あんまり見ていませんが、見るときは雑学番組を見ていて、大半は民放のものを見えています。
- ◇NHKはたまにしか見ませんが、自分が好きな芸人さんが出ているときだけお笑い番組を見ます。民放はドラマやバラエティー番組、音楽番組を見ます。
- ◇どちらかというとなHKを見ることが多いです。『ニュース7』や『ニュースウオッチ9』とか『世界ふれあい街歩き』などをよく見ます。民放だと音楽番組中心です。情報源としては、中立だと感じるのとなHKの番組を中心に見えています。
- ◇大学に入ってからテレビを見る時間がとても少なくなりましたが、NHKだと最近とても気に入っているのが、『鶴瓶の家族に乾杯』です。昔から天気予報は、やはりNHKは正しいというイメージがあって毎回見えています。
- ◇あまりテレビは見ないのですが、どちらかといえば民放よりもNHKを見えています。親がNHKを見ているので、ドキュメンタリーや西田敏行さんが出演している番組とか、経済番組や朝の連続ドラマも結構見えています。

(桑野委員)

テレビを見る時間があまりない方もいれば、テレビを見るならば民放のバラエティーや音楽番組が多いということでした。同時にNHKのニュースなどをご覧になっている方もいます。ぜひ「あまりNHKの番組を見ない理由」をお聞きしたいと思います。さきほど、民放の番組の方が気持的に癒される番組が多いというお話もありました。「NHKの番組はこうだからあまり見ない」など率直な意見をお聞かせください。

【参加学生】

- ◇台本もしっかりしているんだろうなと思わせるような硬いイメージがあります。
- ◇見る時間帯によって、自分の興味がない番組が放送されている確率が結構高い。帰宅が夜遅くて何を見ようかと考えるとき、NHKより民放を選んでしまうことが多いです。

(桑野委員)

皆さんのライフスタイルとNHKの番組のマッチングがなかなかできていないこともあるのかなと思いました。

(八幡理事)

『東京カワイイ★TV』や『着信御礼！ケータイ大喜利』などは夜の 11 時以降 12 時前後に放送して、NHKとして割と砕けた内容で若い人向けに頑張っているのを見ていませんか。

【参加学生】

それよりも私はニュースを見たいので、11 時はニュースを見ることにしています。

(八幡理事)

バラエティー系やお笑い系の番組も最近は結構放送していて、どうして民放と同じようなことをやるのかという逆の批判もあります。でも関西ではやはりバラエティー番組が好まれるのかという気はします。

(桑野委員)

一方で、ニュースや天気予報はNHKらしいというご意見もありましたが、バラエティー系がまだまだ弱いとか、時間帯のご意見もいただきました。私は 40 代半ばなのですが、私たちの世代だと 11 時台ぐらいはすごくおもしろい番組が増えたと感じます。皆さんの声を生かして変えていっていますが、NHKに接触していない方には届いていないのかと思います。

(八幡理事)

NHKを見ていないとそのPRも届かないのでどうしたらいいのか。例えば、東京では山手線の車内に吊り広告をするなど、見ていない方に番組を理解していただくにはどういった方法が一番いいのか考えているところです。皆さんは携帯のワンセグは見ていますか。

【参加学生】

ワンセグはついていますが、あまり見ていません。

(桑野委員)

思っているほど大学生の皆さんは、ワンセグを使わないんですね。

【参加学生】

見る機会がありません。番組を見るなら家でテレビを見ます。電車の中でワンセグを使ってまでは見ません。

(八幡理事)

BSは見られますか。

【参加学生】

実家ではBSも見っていますが、一人暮らしだったらBSはつけません。

(桑野委員)

この中で一人暮らしの方は何人いらっしゃいますか。お一人ですか。子どものころは、NHKの番組はご覧になられていましたか。

【参加学生】

『おかあさんといっしょ』とかは楽しくてよく見ていました。(複数回答)

(桑野委員)

子ども時代は、皆さん共通してNHKを見ていたわけですね。

(八幡理事)

皆さんがNHKの職員だとして、若い人にいかにNHKを見てもらうかと考えたときに、
どういうことを思いつくか、もしあればお聞かせください。

【参加学生】

以前、授業で元NHKプロデューサーのお話をきいたのですが、今までNHKは世界でも3本の指に入るドキュメンタリーを制作してきていたが、最近、質が落ちてきて番組が見られなくなってきたとおっしゃっていました。昔のNHKスペシャル『驚異の小宇宙 人体』とか見ましたが、ほんとうにクオリティーが高いと思います。私は、メディア学科の学生で実際に番組を作るので思いますが、今のドキュメンタリー番組だったら他の国のほうが質は高くなってきています。友達と話題にもならないです。いくら先生から見たほうが良いと勧められても興味がないと1、2回見たら終わってしまいます。

(桑野委員)

ワンセグも含めてNHKの放送以外でメディアに接する機会というのはありますか。

【参加学生】

例えば、電車の中でワンセグを見るよりインターネットで何かを見るほうが手軽さもありません。今生活の中でいちばん関わっているのは、テレビよりもパソコンです。その時間のほうが長いです。そのため自動的にテレビを見る回数が減ってきています。

(桑野委員)

その意味でNHKにテレビ以外で今後どんなサービスを期待しますか。パソコン上でさまざまな情報が入手できるような環境をNHKに求めていかれますか。

【参加学生】

PRをされればテレビもまた見てみようと思うかもしれませんが、ただ、電車でバラエティー番組をワンセグで見ている人が結構笑っていたりするんですよ。少し恥ずかしくて私はちょっと見られないかなと思います。それなら家で見るほうが良いと思います。私はインターネットで情報を得られるほうが楽なのであんまりワンセグは見ません。違う方法でPRしてくれたらいいと思います。

(桑野委員)

「見なくなる番組を作る」とか、「違う媒体でPRする」などというご意見もいただきました。「こうすれば接触者率が上がる」といったご意見もぜひお聞かせください。

【参加学生】

◇若い人があまり見ないのでネットの改革が必須だと思います。通学電車で学生は、8割9割ぐらいの人が携帯を開けてみえています。読書をしている人はそんなにいません。やっぱり携帯がいちばん大きな媒体だと思います。携帯で見られるようなニュースや情報のツールがあれば、もっと若者の接触者率が上がると思います。

◇就職活動で面接の前にニュースを知りたいと思うときに携帯で手軽に見ることができるコンテンツを配信していただくと非常に助かります。

◇英語を勉強したいと思っているので、楽しい英語の番組が見たいです。『英語でしゃべら

ナイト』が、終わって残念です。英語だけではなく、今は中国やインドも注目されています。楽しく学べるように外国語の敷居が低くなるような番組が見たいです。

◇私は出演しているタレントさんや芸人さんによって番組を見たり見なかったりします。この人が出ているなら見ようと思って番組を見ているとCMでほかの番組情報もわかり、おもしろそうだと思って、また番組を見るきっかけになります。若い人たちに人気のあるタレントさんや歌手などを全面に出していったらいいのではないかなと思います。

◇内容がどんなによくてどんな番組なのかという情報がまず入ってこないのが、この人が出ているから見てみようといったきっかけを作ってもらわないと見る事ができません。NHKを見ること自体ちょっと敷居が高く構えてしまうところがあるので、好きな人が出演しているとか軽い気持ちで見られるようなきっかけをつくってもらいたいです。(桑野委員)

人気のあるタレントさんが出演されているからという理由でNHKを見るきっかけができるというわけですね。

【参加学生】

◇福山雅治が出るから『龍馬伝』はすごいぞみたいなことを他社のニュースで取り上げられ盛り上げてくれるということはあると思います。新聞を読んでいるとき、『トップランナー』とか西野カナさんの写真がテレビ欄に出ていると、見てみようと思いました。

◇電車の中や通勤している人に目立つようなところにテレビを設置したり、広告が大事だと思います。NHKの広告を見ることによって番組を見る人も増えてくると思います。(八幡理事)

『龍馬伝』の福山雅治さんとか、『あさイチ』では民放でも活躍している井ノ原快彦さんに出演してもらい、昔に比べたらかなり若い方を意識しています。ただそれをどう皆さんに知っていただけるかというのが課題です。最近はかなり柔らかい感じを意識しているので、NHKらしい方法で出演者についてPRしていくことが大切です。今、NHKでは、『3-Screens』展開として、テレビと携帯、パソコンを使い「いつでもどこでももっと身近に」ということをすすめています。私の娘もほとんどパソコンでニュースも見っていて、今は視聴習慣が変わってきていると感じます。そういう時代ですからPRもテレビだけではいけないなと思います。

(桑野委員)

同時にやはりNHKらしい、「らしい」という言い方は適切なかわかりませんが、NHKだから安心できる番組とか、「NHKだからこそ」というような良質な番組を作っていくことも必要だと思いました。

第2のテーマ：受信料について

(桑野委員)

次のテーマは、「支払率を3年後に75%、5年後に78%にする」ことについてご意見をいただきたいと思います。19年度末の支払率は71%でした。事前にアンケートにもお答えいただいておりますが、皆さんは「NHKの受信料の価格は適正だと思いますか」それとも「高い」「安い」どのように思いますか。「高い」と思われている方が7名、「適正」の方が1名、「安い」という方が1名ですね。やはり高いと思われませんか。

【参加学生】

◇今の世代だから、やはり損得で考えてしまいます。NHKの存在があまり生活の一部とは考えられないので自分自身もお金は払っていません。でも家族もNHKを見るよりは民放を見ているので、割合で考えてしまったらちょっと高いと思います。他のメディアに比べれば安いのですが、自分が使っていることを考えたら高いと思います。

◇今は、無料の文化とも言われたりしますが、Yahoo!など無料でニュースが見られます。情報が無料で入ってくる時代になってきていると思います。新聞と比べたらNHKは安いほうですが安くてもちょっと払うのは躊躇（ちゅうちょ）してしまいます。

◇一人暮らしでテレビを見る時間がほとんどありませんが、親が全部払ってくれていると思います。時々興味がある番組を見るぐらいで、その番組のためだけに払っていると思っています。民放のニュースは画面がすごく明るく理解しやすい簡単な言葉を使ってくれますが、NHKの番組は視覚的にも言葉も硬いので大学のレポートが終わったあとに疲れた頭で見るのはちょっと辛いです。自分がNHKを利用する割合を考えると民放は無料なわけですからやっぱりちょっと高いと思います。

◇家族はNHKを見ていますが、私自身はほとんど見ないですし、生活からNHKがなくなっても困らないのでそう考えると高いなと思います。

(桑野委員)

自分の暮らしの中でNHKの番組を見る時間は限られているので、その意味では高いと思われているようですね。一方で、適正だと思われている方のお話も聞かせていただけますか。

【参加学生】

◇NHKを見ているほうなので全然高いとは思いません。番組構成を考えてみても民放とNHKでは全然違う気がします。NHKは、知識を学ぶことができる感じがしますが、民放は楽しむだけといった感じがします。芸人さんが出ている番組とか、あまり見ません。やっぱりためになるような番組が好きなので受信料は高いとは思いません。

◇信頼度は、新聞や雑誌よりもNHKのほうがあると思います。ただ受信料を払っているのはお年寄りの方が多いということは、見ている時間が多いということもあるのではないのでしょうか。だから受信料が高いと思われる方がいるのは当然でしかたないと思います。自分も比較的NHKは見っていないほうですが、ためになる番組が民放に比べると多いと思うのでその分に対してはお金を払ってもいいかなと思います。

(八幡理事)

受信料とは、法律的に国民が公共放送のために少しずつ負担するというものであって、

いわゆる見たから払うという対価ではありません。その部分が見ないから払わなくていいという視聴者の意見とぶつかる場所でもあります。それは、日本の中で公共放送をきちんと育てていくのか、それとも公共放送はもう必要ないのかということでもあります。

例えば、神戸も大地震がありました。災害があったときにどこがきちんと責任を持って情報を流しているのか。公共放送は国民の生命財産を守るというのがいちばん大きな使命でもあります。また、スポーツ中継などの放送権料がとても高くなっており、公共放送がなくなるとオリンピックやワールドカップサッカーを日本で放送できなくなる可能性もでてきます。イギリスにもBBCという公共放送がありますが、イギリス国民にとって必要だから存続していると思うんです。若い方にとっては、確かに勉強して疲れて帰ってきてNHKのやや重い番組はしんどくて、気楽に笑える番組のほうがいいというのはあると思います。ただ、自分たちの将来の生活や日本の将来を考えたときに公共放送がなくてもいいのか、受信料制度がいいのかどうかということは考えてみてもらいたいです。NHKは、視聴者の皆さんにとって必要な知識や教養、生命、安全などの情報をきちんと国民に提供していくというのが、使命だと思っています。

大きな災害のときは、NHKを見ますか。そういうときも民放を見られますか。

【参加学生】

NHKを見ます。確かにオリンピックのときもBSとか一挙放送とかやっていますしNHKを見ます。

(八幡理事)

例えば、オリンピックやワールドカップサッカーの放送権料はかなり高額になります。NHKとしては公共放送として必ず放送をしなければいけない国民的関心事であるという視点に立って受信料を使って放送しています。また小さいときは『おかあさんといっしょ』を結構見ていませんでしたか。そういった番組が商業主義的な理由で全部なくなっているのかということも含めて受信料制度の意義についてこれから社会に出る前にちょっと意識していただきたいと思います。

(桑野委員)

各地でこの会を実施していますが、年齢層が高い方のご参加が多いので若い皆さんが公共放送についてどう思っているかを伺える機会はあまりありませんでした。皆さんにどうということをお伝えしなくてはいけないのかも伺えたらと思います。NHKでは、視聴者の皆さんから年間に460万件ものご意見をいただいております。そのお声は業務に生かし、「ここの仕事」とか「視聴者サービス報告書」といったパンフレットやインターネットでも掲載しています。ところで皆さんは、受信料の家族割引をご存知でしょうか。

【参加学生】

知らないです。

(桑野委員)

そういった情報が学生の皆さんに伝わっていないということもこの会で思ったことです。受信料の特例や免除などいろいろあります。例えば、現在のような経済状況下では全額

免除の申請をする方もいらっしゃいます。半額免除や家族割引なども公共放送だからこそできることではないかと思っています。もっとアピールしてもいいかもしれません。

(八幡理事)

僕が学生のころは、契約したときは1世帯に1契約でした。今は、学生さんは実家で払っていたら、自分のところは半額で済むという家族割引制度があります。また障害者の方への半額免除もあります。イギリスでは、75歳以上の方は国が金額を助成する制度があります。

【参加学生】

一人暮らしをはじめたばかりのころ何回かいらしたんですけど、割引の説明とかは全然ありませんでした。テレビを買ったら親に払ってもらおうとは思っていたのですが、「払っていないですよ」といった感じで半年に一度取り立てのように来られていました。下手したら1週間おきに来られたりして、払う気も失せるという感じがしました。友人宅にも似たようなことがあり、「ちょっとNHKは」みたいな話をしました。

(桑野委員)

今の対応のことなども含め確実に執行部も私ども経営委員会でもご意見は共有して、今のような不愉快なことをないようによりよくしていこうと思っています。

(八幡理事)

今のお話を聞くと視聴者の方へきちんとした対応をもっと大切にしないといけないと思います。そういった教育は必ず行い、お客様対応にあたる人材もきちんとした採用をしていくよう現場をお願いします。

(桑野委員)

最後に、どうしたら国民の皆さまに公平に払っていただけるか、その辺りで何かご意見はありませんか。

【参加学生】

◇思い返してみたら、思っていたよりも自分はNHKを見ていたと思いました。ためになる番組とか災害のとき、天気予報もNHKを見ています。でも今は民放とか楽しい番組に流されて、見てないから払わないという考えの方が多いと思います。だから根本的な今のような説明を受けたら一人でも多くの方が受信料を払うようになると思います。

◇今のように1から説明されたら、やっぱり払わないといけないと思います。きっと他の人にも1から説明することが大事だと思います。

◇公共放送というものがわからなかったですし、なぜNHKに受信料を払わないといけないのかも知りませんでした。今払っていない人は、知っていても払いたくないと言っているかもしれないですが、少なくともきょうのお話やオリンピック放送の話などを聞いて払わなくてはいけないと私は思いました。もっと知ってもらえるようにする必要があります。

◇若い人たちは携帯世代だと思うので、例えば携帯を買うときにはウェブを見るのはいくらまでは定額ですと詳しく説明をしてくれます。同じように説明を詳しくしてもらえ

ば、払わないとだめだという意識が芽生えてくると思います。説明も文書ではなくて、若者にわかりやすくビジュアルにしたほうがよいと思います。見た目でもわかりやすく料金設定の説明をしてもらえると払っていこうという意識になると思います。

◇私の周りには払っていない人が多く、どうして払わないのかと聞くと、説明とかわかっているのだけど払わないんです。だからそういう人が多すぎてどうしたらいいのか全然ひらめきません。説明を聞いても払わないし、訪問に来られてもNHKだとわかったら応答もしないんです。払わなくてはいけないんじゃないかと思うんですけど、そういう意識が全然なくて、見ないからいいんだみたいな言い方をする人が多すぎます。もっと強制的にしなくてはいけないんじゃないかと思います。

(八幡理事)

新聞にも出ていますが実際に強制執行や民事の裁判をしています。そういったことはしたくなくて、ご理解いただいてお支払いいただくことが一番いいと思いますが、絶対に嫌だと言われる方もいます。そういうこともあって支払率の目標も75%、80%となっています。そこをどこまで理解して払っていただけるかというのは、将来につながる大切なことです。また、一方で半分以上の方が「もう払わない」という社会になれば、日本はこれから厳しい国になっていくような気がします。

【参加学生】

でも今、給食費を払っていない方も多いです。始まった当初のいきさつを知らない世代が増えてきているということもあると思います。授業でNHKの方がいらしたときに、いっそのこと税金のように給料から引いてしまったらどうなのかという話もしました。

(八幡理事)

国によっては税金のようにして支払ってもらうところもあります。しかし、言論機関は国から独立していなければならないという基本的な考え方があり、税金として国が集めたお金で公共放送を運営すると、中立な立場が侵されるのではないかという考えもあります。ゆえに受信料によってNHKは運営されています。しかし、今後税金のように徴収する可能性もないわけではないです。

(桑野委員)

NHKが国営ではなく、公共放送であるということはすごいことだと思います。受信料を払おうと思ってもらえるようなビジュアルな説明のしかたも含めて、いろんなことを努力すること、その必要があると感じました。同時に今、お話があった税金という話も今後必要になってくるかもしれませんが、まずは頑張ってみようと思います。皆さんにちゃんとご説明できるようなNHKになっていこうと思います。

第3のテーマ：どんなNHKであってほしいか

(桑野委員)

最後に「どのようなNHKであってほしいか」、「こういうところがこうなったらもっとNHKはいい」とか、「NHKの未来に向けて」といったご意見をぜひお聞かせください。

【参加学生】

- ◇結構硬いイメージがあると思いますが、よく言えばしっかりしている、正確そう、勉強になるなどがNHKの強みであると思います。それを軸にして、ニュースであれば、おもしろくわかりやすく砕いた感じで、ためになる番組を制作してほしいと思います。
- ◇最近民放を意識した『東京カワイイ★TV』だとか、『着信御礼！ケータイ大喜利』や『みんなでニホンGO！』などのバラエティー番組がありますが、NHKは映像と内容で見せるのが魅力だと思います。ある程度柔らかい内容にしていくのもいいのですが、映像や内容の信ぴょう性などのクオリティーを守っていくことこそが、将来につながると思います。
- ◇伝統的な『紅白歌合戦』など伝統を守っていきながらも革新的な見やすい番組を作っていただきたいと思います。硬いイメージだけを取り払っていただき、伝統は守ってほしい。そしてイメージは変えたほうがよいと思います。
- ◇もともとNHKは硬いというようなイメージを持っていません。変にバラエティーを取り入れるとやっぱりNHKのイメージが崩れ、視聴者は主に60代以上がメインなわけですから今まで見てきた人の反感をもたれると思います。僕は就職活動にも役立つような教養番組はおもしろいと思っているので今のスタイルはすごく好きです。
- ◇昔に比べるとNHKを見る機会が多くなっています。その理由の一つは、タレントさんが多く出ていて、よく見るとおもしろくて見る機会が多くなりました。NHKに頼っている部分でニュースや天気予報などありますが、理想をいえば、芸人さんも出ているような番組も全部ひっくるめて一番であってほしいと思います。
- ◇BSを含めてもNHKのチャンネル数は民放のチャンネル数よりは少ないので、時間帯によっては番組もいろいろあっていいとは思いますが、でもやっぱりNHKは今までどおりのNHKであってほしいです。変にテコ入れをしないほうがやっぱりいいと思います。
- ◇もう少し気楽に見られてゆるさのある番組が好きなので『東京カワイイ★TV』をたまに見るんですけど、沢村一樹さんは全然NHKっぽくなくてあの番組は好きです。ああいう番組を増やしたら見る機会が増えるのではないかと個人的には思います。
- ◇番組名が硬いと思うときがあります。新番組の時期になると、いくつか自分の興味があるキーワードで新しい番組を調べたりします。ゴールデンタイムは、ご飯を食べながらみんなでワイワイ言いながら見るような番組が求められると思います。そういう時間帯にゆるさを加えたりすると、みんな録画してでも見ると思います。今の番組編成は今ひとつかなと思います。

(桑野委員)

きょうは3つのテーマで皆さんからいろいろとご意見をいただきましたが、経営委員会だけではなく執行部といっしょになってご意見を共有して今後生かしていこうと思います。こちらで一方的にお尋ねしてきたので、何か質問とかありますか。

【参加学生】

番組を作るときは、どんなことを考えていますか。

(八幡理事)

NHKのディレクターは、たぶん世の中のさまざまな問題や感動を番組で表したいというところがあるのだと思います。何の目的もなく、視聴者が何の意味も感じないものは作らない。そこが少し硬いと言われるのかもしれないのですが、本当の意味で自由に表現することのできるNHKのディレクターの希望者は多いです。やりたいことがやれるというのが一番だと思います。

【参加学生】

長い番組は長いけれど、結構、短い番組が多いと思います。どうやってその時間や配分を決めているのですか。

(八幡理事)

基本的には、事前に視聴者のニーズ、ライフスタイル、番組の特性など、さまざまに調査検討をして編成を決めています。

《Dグループのディスカッションの概要》

第1のテーマ：NHKへの接触者率について

(野間委員)

説明にありましたように、最初のテーマは、「NHKの接触者率を3年後に80%に上げましょう」ということについてです。接触者率というのは、NHKをどれだけの方が見てくださっているかということです。

(吉国理事)

これは1週間のうちに5分以上見た日が1日でもあればよいのですが、皆さんの世代の方ですと6割ぐらいしかありません。この1週間でNHKのテレビを5分以上見た方って何人ぐらいいますか。

(野間委員)

半分ぐらい手があがりましたが、4人ですね。ではNHKのどんな番組を見ておられますか。今、手を挙げられなかった方は、民放では何か番組を見られていますか。

【参加学生】

◇アメリカンフットボール部に所属しているのでBSで放送しているNFLは、シーズン中はよく見ています。今の時期だとやっていないので、ほとんどテレビは見えていません。

暇があればバラエティー系を見ることが多いかもしれません。

◇ニュースが多いです。民放で夜やっているスポーツ番組とかよく見ます。

◇最後にNHKを見たのは、バンクーバーオリンピックでした。

◇バレエのローザンヌのコンクールとか、特別なときにしかあまり見ることはありません。

あとは海外ドラマでNHKで放送されているものは見ますが、普段はあまり見ません。テレビ番組よりも映画を借りるもののほうが多いです。

(野間委員)

日常的にはテレビは見ないけれど、特別なものだけを見るという方が多いようです。

(吉国理事)

皆さんはテレビそのものを見るのが少ないのでしょうか。パソコンや携帯を見る方が多いのでしょうか。

【参加学生】

◇テレビ自体あまり見ません。

◇部活をして帰ってくるのが遅いのでCMでやっているようなおもしろそうな番組もその時間帯にはやっていません。テレビがなくても今の生活にはあまり困りません。

(野間委員)

今週テレビを見られたという方は、どんな番組を見られましたか。

【参加学生】

◇ニュース番組を見ました。親が見ているのでなんとなくいっしょに見ています。

◇最後に見たのは『紅白歌合戦』でした。基本的にテレビはあんまり見なくて、携帯のニュースを見えています。

◇日曜日はNHKがついています。両親は、『ダーウィンが来た』から『大河ドラマ』を見てニュースを見るというのが日曜日の習慣になっています。はじめは、見たことがなかったのですが、最近では、『龍馬伝』よりも『ダーウィンが来た』のほうを見えています。

◇朝、学校に行く前は『おはよう日本』を見えています。去年は教育テレビで放送していた『ふたつのスピカ』や『リトルチャロ』は見っていました。私はNHKしか見ないです。

(野間委員)

教育テレビっておもしろいですね。『リトルチャロ』はよかったですね。

【参加学生】

すごくおもしろかったです。テキストも充実していました。

(吉国理事)

あの番組は、テレビ以外にもインターネットでもいろいろと工夫をして配信しています。

【参加学生】

おもしろくなかったらチャンネルを変える癖がありますが、たまたまNHKを見ていて、高校生が問題を解く『テストの花道』はおもしろいと思って見ました。所ジョージはおもしろかったです。

(吉国理事)

チャンネルはどういうときに止めますか。またおもしろそうとか何に惹かれますか。

【参加学生】

ただおもしろいだけではなくて自分のためになるっていうときです。

(野間委員)

家族がごいっしょの方は、家族がご覧になっているので朝の時計代わりとしてテレビをつけている家もあるでしょうし、いっしょに見られると思いますが、一人暮らしの方は、あんまり特にNHKはご覧になられていないということでしょうか。

(吉国理事)

NHKの番組はおもしろくないとか、堅苦しいとかとそういった感じがありますか。

【参加学生】

イメージ的にはまじめそうです。

(吉国理事)

やっぱりあまりまじめそうなテレビは見たくないですか。

【参加学生】

昔は、教育テレビで放送していた『おかあさんといっしょ』を見ていたし、子どもが見るテレビというイメージがあります。だから今になっても教育テレビはあまり見ないです。

(野間委員)

小さいころ、『おかあさんといっしょ』を皆さんは見ていましたか。

(吉国理事)

いつごろからNHKを見なくなったんだろう。中学生ぐらいになると見ていないのかな。

【参加学生】

海外ドラマを6時台とかに放送していて、それをよく見ていました。

【参加学生】

まじめっていうイメージはありますが、悪いところだけじゃなくて民放でやっているような砕けたバラエティーが嫌になったときは、NHKにチャンネルをあわせませす。

(野間委員)

NHKがバラエティーをやるのはよくないという人と、そういうのをやらないと若者が見ないという人の両方の意見に別れるようです。民放のようなバラエティーを若い人に受けるように一生懸命作ったりしているのですが、どう思われますか。

【参加学生】

『サラリーマンNEO』ですか。

(野間委員)

『サラリーマンNEO』は、硬いほうですよ。

(吉国理事)

どちらかというとならサラリーマンに元気を出してもらおうという番組です。もう少し上の世代の番組かもしれません。

(野間委員)

もうちょっとくだけた番組やお笑いの番組もやっています。若い人に見てもらおうと思ってはじめてたのです。

(吉国理事)

遅い時間帯になると、結構いろいろな番組をやっています。特に年配の方からは、お笑い芸人ばかりを使って民放といっしょみたいだと言われることもあります。皆さんは、NHKとか民放とか問わずどんな番組を望んでいますか。

【参加学生】

ドラマでも民放のほうが宣伝のしかたがうまいと思います。ドラマに限らずバラエティーにしてもそうです。

(吉国理事)

皆さんはNHKでどんな番組をやっているのかあまり知らないですか。PR不足なのではないかとよく指摘されることもあります。

【参加学生】

◇PRは不足していると思います。何の番組か知らない。いい番組はいっぱいあると思うのですが、知らないのです。

◇テレビを見るときは、見たい番組があってテレビをつけるというよりは、たまたま時間があってテレビをつけて、チャンネルを変えながら見たいものがあつたら見るという感じです。NHKはイメージ的に硬いとかまじめなイメージがあるので、どうしても民放のほうをメインに見て、あんまりNHKを見ることはありません。

◇これを見ようと思ってテレビをつけるというよりも、番組が自然に流れている感じで基本的にチャンネルを変えたりはしません。どうしても見たくない番組だったらチャンネルを変える感じで、NHKは最後の選択肢です。でもたまに結構おもしろいんだなというときもあって、興味があるとそのまま見ているという感じです。

(野間委員)

どういった番組があるとか、というのがわからないのですね。お年寄りには新聞を見てどういった番組があるかを知っているけれど、このごろ新聞もあまり読まなくなりました。

(吉国理事)

NHKの場合は、今、放送の中ではかなり番組の予告をしています。むしろよくご覧になっている方からはうるさいと言われているぐらいですが、確かにNHKを見ていない人にそれをやっても誰も見てはくれないうです。皆さんは番組表なんか見ないですか。

【参加学生】

接触者率を80%に高めると書いてありますが、これは目標達成のためには若者の接触者率が低いので80%に高めようということでしょうか。それとも全体的に上げようということですか。

(野間委員)

全体的なことですが、若者の接触者率が非常に低いのでそれを上げていかないと、80%にはなりにくいわけです。

(吉国理事)

60歳以上の方だと90%ぐらいで、ほとんどの方はご覧いただいています。接触者率を上

げるためには若い人もそうですが30代、40代のところも上げていかななくてはなりません。

【参加学生】

60代以上の方の接触者率はすごく高いと言われていますが、若者の接触者率を上げようとしてバラエティーなどを増やしたら、今まで見てくださっている年配の方の接触者率は下がらないのでしょうか。

(吉国理事)

よく見てくれている人からおしかりを受けることはあります。ただ全部がそういった番組になっているわけではなくて、もっといろいろな人向けにいろいろな番組を作っているわけですね。お年寄りの方が見て楽しいと思ってくださる番組を無くすわけではありません。

(野間委員)

確かに視聴者の意見を伺っていますと、時間数は決まっているので高齢者の方は見る番組が少なくなるのではとおっしゃる方もおられます。高齢者の方で12時以降NHKは見る番組がないと言われる方もいらっしゃいます。そのことについてNHKとしてはどう考えているのか、経営委員会でも伺っています。若い人に向けて作った番組でも実際のところ若い人たちの接触者率が思うほど上がってはいない現状です。

(吉国理事)

たぶん民放がやっていることと同じことをやっても見てはいただけないと思っています。民放のほうがはるかに慣れていて、それでNHKの場合はどうしたら若い方々に見ただけのかをぜひ知りたいと思っています。

【参加学生】

野球やサッカーなどは、結構民放でも放送されています。スポーツの競技数はいっぱいあるわけで、そのほとんどがマイナースポーツです。特にアメフトは今少し話題になってきていますが、やっぱり人口が少ないので放送されることも少ないです。民放は有名なスポーツしかほぼ取り上げませんが、スポーツならば若い人から年配の方まで年齢関係なく楽しめると思います。そこで他の局では放送しないようなマイナースポーツの大会や特集を組んで放送したら誰でも見てもらえるんじゃないかと思います。

(野間委員)

とてもよい視点だと思います。NHKはマイナーなスポーツを放送するというのもひとつの役割です。

(吉国理事)

アメフトは3年前のワールドカップで、日本戦や決勝戦などをBSで放送したと思います。これもずいぶんアメフトをされている方からは喜ばれました。

【参加学生】

毎年1月3日のライスボールは、NHKがいつも放送してくれるので何回か見えています。僕らは普段からライスボールに行くために努力してきた試合というのがいっぱいあるので、そういう試合も放送してもらいたいです。

(野間委員)

スポーツ文化の底上げをしていくといった役割もあります。音楽もそうですが、NHKが行なっていることはたくさんありますが、なかなか皆さんに伝わりにくいのですが。

【参加学生】

バンクーバーオリンピックで、スノーボードのハーフパイプが放送されていました。小学校のころからスノーボードをやっていて楽しみに見たのですが、正直解説がむちゃくちゃでした。やはりマイナースポーツだからなのかと思いました。周りのスノーボードをやっている人もみんな言っていました。国母選手の問題で視聴率もよかったと聞いたのですが、あんな解説だったら誰もわからないだろうと思いました。せっかくマイナースポーツを取り上げてくれるのでしたら、わかりやすいように放送してほしいと思います。

【参加学生】

民放はいつも娯楽系の番組を放送しています。NHKは、マイナースポーツを取り上げたり、スポーツのよさを伝えるような番組を作してほしいと思います。民放の教育番組よりもNHKはいいものが作れると思います。NHKだからこそという独自性を追究していったほうがいいと思います。

【参加学生】

民放と張り合うのではなく、ゴールデンタイムを外してみても時間帯で勝負するという考え方もあるかと思っています。

(野間委員)

民放と対抗するのではなくてNHKは独自で特殊な立場を守ってほしいということですね。若い方からそういったご意見をいただけることはうれしいことです。

(吉国理事)

今、『3-Screens』ということでテレビだけではなく、インターネットも含めていろんなサービスを展開しています。例えば、NHKオンデマンドでは過去の放送を見ることができるサービスを始めています。ワンセグの独自放送もやっています。特にこういうことをやってもらいたいというご意見はありますか。

【参加学生】

最近、NHKオンデマンドについて知りましたが、過去の1週間分ぐらいしか見られないんです。もっといろいろ過去の番組が見られたらいいのにと 생각합니다。

(吉国理事)

大河ドラマなど、見逃し番組以外で見られるものもあります。増やしていこうとしていますが、権利関係など難しい部分があります。できるだけいろんな番組が見られるようにしていきたいと思っています。やはり好きな番組が見られるというのはいいですか。

【参加学生】

民放だと、レンタルビデオでも貸し出しをしていますが、NHKはされていますか。

(吉国理事)

DVDやビデオ化をいくつかドラマなどはしていますが、NHKが販売しているわけで

はありません。

【参加学生】

海外ドラマとかですよ。

【参加学生】

ドキュメンタリー番組とか、『プロフェッショナル 仕事の流儀』や『トップランナー』などの番組を貸し出ししてくれたら私たちの世代でも手に取りやすいと思います。

(野間委員)

オンデマンドでもそういう番組があれば、見ますか。

【参加学生】

◇過去の作品を見たいです。

◇全部ではなくても特に人気があった番組だけでも見られるとありがたいです。

(吉国理事)

ぜひ、NHKオンデマンドも体験してみてください。

第2のテーマ：受信料について

(野間委員)

次に受信料についてお聞かせください。皆さんから事前に受信料について「高いと思うか」「安いと思うか」といったアンケートをいただいています。実家に住んでいる方は、たぶんご両親がお支払いいただいていると思います。

支払率というのは、本来は100%でなければならないのですが、今は72%ぐらいです。公平に負担するためには、将来的にどのようにしていけばいいと思いますか。外国では、電気代といっしょに徴収しているところもありますが、どうしたらもっと支払っていただけるようになると思いますか。

【参加学生】

受信料というのは、一家族ごとに契約する形になっているんですか。

(吉国理事)

そうです、世帯契約です。だからテレビが自宅に何台あっても一世帯は一契約です。

【参加学生】

一人暮らしの友達のところにはNHKの受信料を徴収する方がいらしたことがありました。一人暮らしで一台しかテレビもなくて、そんなに見ないし、実家にいたら払わなくて済むのに同じ値段を払わなくてはいけないのは高いなと話していました。

(吉国理事)

実はこれもPR不足なのですが、今は、学生さんで一人暮らしの方や単身赴任のお父さんとかは、受信料が半額になる割引制度ができています。家族割引と言っていますが、ご存知ありませんか。

【参加学生】

◇知らなかったです。

◇友達といっしょにいたとき、払ってくださいと言われたのは確か半額ではなかったと思います。一人暮らしの学生の多いアパートだったので、たぶん玄関に出てきた時点でわかると思いますし、そういうときに言ってもらったらいいと思います。

(野間委員)

そういう説明は徹底しなくてははいけません。

【参加学生】

払わない人の言い訳の理由として一番多いのは何でしょうか。NHKを見ないからという理由でしょうか。

(吉国理事)

そうですね。それについてはどう思いますか。

【参加学生】

ほんとうに見ていないのだったらその言い分もわかりますが、なんやかんやと見ている人も結構いると思います。

(野間委員)

NHKは番組を作るだけでなく学生の全国音楽コンクールなど、国民の文化の向上ためにさまざまな方向で受信料を使っています。皆さんはそうしたことはあまり普段考えないし、説明も受けていないと思いますが。

(吉国理事)

受信料はあくまで見た対価とか、見返りという意味ではありません。災害時にNHKは放送することが法律で義務づけられています。そのために取材態勢も整えています。国民の生命と財産を守ることが仕事の一番の基本でもあります。それを存続させるためにみなさんに少しずつお支払いいただけないかというのがほんとうの主旨でもあります。

(野間委員)

各都道府県には必ず放送局があります。兵庫県の場合は神戸にありますが、各地の情報を集めて、災害情報をはじめ福祉の面などいろんな情報を出しています。つまり公共放送は生活のセイフティーネットのような役割を負っていると思います。そういったことは説明不足ですか。

【参加学生】

◇そうです。この場ではじめてNHKの方からお話を伺って公共放送はそんな役割があるんだと知りました。20年間生きてきて、民放と公共放送の何が違うのか、どんなことをしているのかまったく知る機会がなかったのでよくわかりました。

◇受信料を支払っていない方は、たくさんいらっしゃると思うのですが、NHKは何を放送しているのかわからない、100%ニュースじゃないかみたいな意識があると思います。払っている人でも、大まかな概念とかまったくわからない方が多いんじゃないかと思います。しかし、例えば昨年新型インフルエンザが国内で流行したとき、NHKを見てい

ない人はいないんじゃないかと思います。また、NHKのデータ放送で神戸エリア情報にあったイベントにも行ったことがあります。そういった見返りもありますので受信料はやはり払うべきだと思います。それに値段もそんなに高くないと思います。

(野間委員)

受信料っていう名前がよくないのかも。受信に対する対価というイメージがありますね。生活のセーフティーネットという役割があるのですから、説明不足だと思います。

【参加学生】

若い人は、携帯電話をよく使います。そのなかでもウェブにつないでパケット通信でいろんなデータを取得すると受信料と言われてお金がとられていきます。だから受信料と聞くとやはり構えてしまいます。

(野間委員)

昔、奈良市内で誘拐事件があったとき、奈良放送局が各地域でこんな対策をしていますといったことを放送しました。それで奈良市内全域で防犯しようという意識が広がりました。まさにこれが地域放送NHKの役割だと思います。こういったことも説明していかないとわかりません。

(吉国理事)

阪神淡路大震災があつてから、NHKでは今でもそれを教訓とした取り組みを続けていますが、なかなかそういったことも見ていただけていないということですか。どういった伝達のしかたをすればよいのでしょうか。

【参加学生】

災害が起こったときの情報は、やはりワンセグや地上デジタル放送でしょうか。また、データ放送にはすごくいろんな情報が詰まっていると思います。昨年、兵庫県の作用町で大洪水が起きたときに現地に派遣するボランティアを募集しますとPRしていたのもNHKだったことをよく覚えています。一人でも多くの方にわかってもらえるよう伝える手段をもっと明確にする必要はあると思います。

(吉国理事)

単に放送だけではなく、データ放送や携帯も含めてそういった情報を皆さんに触れられるようにもっと出していければいいと思います。

【参加学生】

よくわかっていないのですが、パンフレットに受信料の月額が書かれていますが、1か月に1回払うということなののでしょうか。

(吉国理事)

基本的に2か月単位です。前払いで半年払いや1年払いというものもあります。その場合は、割引になります。

【参加学生】

それならば、はじめから1年払いにしたらいんじゃないですか。なぜわざわざ分けているんですか。

(吉国理事)

1年払いを希望して割引を受けられる方もいるし、やっぱり2か月に1回でないと嫌だと言われる方もおられます。払い方を選択できるようにしているわけです。

(野間委員)

皆さんは、『NHK視聴者サービス報告書』や『NHKことしの仕事』というパンフレットを見られたことはありますか。これがあまり目に触れられていないので、経営委員として、もっと学食や銀行などいろんな場所に置いてもらいたいと伝えているところです。

【参加学生】

表紙を見ても、あまり手には取らないですね。

(野間委員)

そうですね。私は、美容院や病院などに置いてくださって持っていくんです。2～3週間経ってパンフレットが少し読まれていたら、見てくれているなと思って喜んでいきます。

【参加学生】

◇見ようとは思わないです。なぜかと理由を聞かれると困るんですけど。

◇私も見ないです。知らなかったです。

◇フリーペーパーのようにどこでも取れるようになっているんですか。

(吉国理事)

これはあちこちに置いてあるものではなくて放送局に置いてあります。もっと簡単なものもあります。部数に限りがあるので皆さんに配っているものではないです。

(野間委員)

せっかく作っているのですから、一人でも多くの方に見ていただけるようにしてもらいたいものです。

第3のテーマ：どんなNHKであってほしいか

(吉国理事)

最後のテーマ「どのようなNHKになってほしいか」ということで、皆さん自由にご発言いただければと思います。

【参加学生】

◇受信料を支払うことが全国民の義務ということであれば全国民にプラスになるようなことができる放送局であってほしいです。

◇マイナースポーツを取り上げるようなNHKにしかできないことに力を入れてほしいと思います。

◇民放と違ってNHKの閉鎖的というか、他とは違うところが好きです。ドキュメンタリーなどに力を入れているのは、他の局ではできないことだと思います。バラエティー番組などを作って、媚びることも一つの手かもしれませんが、そういった部分の力は落と

してほしくないです。

◇民放と違っていろんなバリエーションがあり独自性のある番組が多いです。ドラマ『ハゲタカ』は、すごくおもしろくて映画も見に行ったほどです。それと受信料という名前はちょっと硬いかなと思います。「NHK視聴サービス料」的なやさしい感じにしたらどうでしょうか。漠然としていますが、なくなったら寂しいと思われるような放送局であってほしいと思います。

◇NHKは民放と競走するのではなく、一番魅力的なのは教育番組だと思います。民放ではほとんど教育番組は見られない中でNHKはずっと続けているところがほんとうにいいと思います。国民の文化水準を向上させるようなNHKであってほしいと思います。

◇NHK独自のものについては続けていただき変にバラエティー番組に走らなくてもいいと思います。NHKらしいこびないような宣伝は必要だと思います。NHKは、生活に欠かせない情報を送っているということを貫いていただければいいと思います。

◇小さいときから教育テレビをよく見ていました。特に『つくってあそぼ』がすごく好きで、再放送も何度もされているのを大きくなってからも見て、やはりおもしろいなと懐かしく思いました。子どものころはなかった『にほんごであそぼ』は、私が小さいときに放送されていたらよかったのと思える番組です。いいものは残しつつも新しいものを作ってほしいと思います。

◇民放のバラエティーのような番組を作ることについては疑問があります。ドキュメンタリーはすごく好きですし、いっぱいいい番組があると思うのでもっとPRをしたほうがいいのではないかと思います。

◇砕けた番組やバラエティーを作っていくとどの局も似たような感じになり、NHKも似たような番組になってしまうと思います。他局とは違ったNHKの独自のよさを残して行ってほしいと思います。マイナーなスポーツやバレエのコンクールなど民放では放送してもらえない専門的なジャンルの番組を増やしていけば、それぞれ興味を持っている人たちの数が増えていくと思います。皆さんに受ける番組というよりも、受けるジャンルを増やしていけたら、もっと皆さんがNHKに興味を持つのではないかと思います。

(野間委員)

テレビを見ていない方に、どう宣伝するかということが大切なことですね。

(吉国理事)

新聞で紹介することもあります。民放ラジオの番組にNHKが出て行ったりということもはじめています。新番組のラッピング電車を走らせたりしてはいますが、なかなか決定打にはなりません。なにか知恵がありますか。大学で何をしたらいいのでしょうか。

【参加学生】

◇さきほどの冊子ではなく、この「WONDER」のようなリーフレットなら僕らの目にもつくし、見てみようかなと思います。

◇こういう冊子でも置く場所を考え、同じ内容でもそれぞれの世代にあったものを作って若い人が集まるようなところには若者向けのものを設置したほうがよいと思います。若

者向けに砕けすぎると年配層の方には、それをよしと思わない方もいるとは思いますが、今のままだとやっぱり若者はあまり興味を持たないと思います。

(吉国理事)

NHKネットクラブで会員を募集しています。入会すると、いろんな番組の情報や見学会、催しものに優先的に入られるといった特典もあります。もしよろしければ一度ご覧いただいて、無料なのでぜひ登録してみてください。

【Aグループの学生代表者による発表】

テーマ1の『NHKの接触者率』については、接触者率を上げるためにはNHKを見るきっかけを作っていくことが大事という意見がありました。また硬いイメージや遊び心がなく抜けがないというイメージを取り払うことが大事なのではないかという意見もありました。一方で、医療系や刑事ドラマなど少し硬めのドラマを放送すると接触者率をあげることができるのではないかという意見もありました。

次にテーマ2の『受信料の支払率』について、「受信料をすべての方に公平に負担してもらいたい」というNHKのいう負担金ということをはじめはまったく知らずに「どうしてNHKのために支払っているのだろう」というイメージを持っていました。負担金として公平に皆さんから払ってもらいたいということをNHKはもっと広報しなくてはいけないと思いました。見ていないのに支払わなくてはいけないのかと思う方が多いようなので、支払率を上げるためにはもっと宣伝をしてどのような番組をしているか知ってもらう必要があると思います。たまたま見るというのではなくて、見たいから見ると思えるような番組の宣伝をするべきだと思います。

テーマ3の『どのようなNHKであってほしいか』についてですが、硬いイメージをすべて取り払うのではなく、硬いイメージを残しつつも親しみやすいNHKであってほしいと私たちは思っています。教育テレビの『おかあさんといっしょ』は、みんな子どもどものときは見ていました。そのままずっと続けてほしいですし、ドキュメンタリーも他局のものよりも内容が深くて濃いものが多いという意見がありました。提案として、もっとコアに野球選手一人を追いかけて毎週紹介していくようなドキュメンタリーをやってほしいというのがありました。また、NHKは女性っぽいという意見もありました。空気のような存在で絶対になくってはならないのに奥ゆかしさがあって、あまり前面に出てこないイメージがある。もっと積極的にアピールする部分も必要なのではないかということです。

【Bグループの学生代表者による発表】

テーマ1の『NHKへの接触者率を上げるにはどうしたらいいか』については、NHKの番組宣伝は硬く、またそれを知る機会が少ないという意見が出ました。もっと宣伝を柔らかくして、知る機会を増やすことが必要なのではないかという結論になり、まだあまり目立っていない放送以外のインターネットや電車広告などの媒体での宣伝を増やしたらいいのではないかという意見がありました。また番組セットをもう少しカラフルにしたり、BGMをもう少し明るくすることでもっと気軽に若い人にも見てもらえるようになるのではないかという意見がありました。またドラマもたくさん作ってはいるのですが、人気のある俳優をもっと集めたら若い人に興味を持ってもらえて接触者率が上がるのではないかという結論になりました。

テーマ2の『受信料』について出てきた意見ですが、一人暮らしの学生にとって受信料の徴収をされるスタッフの方が不審な人なのではないかと思ってしまう。もう少しテレビなどでNHKのスタッフはこういった身分証を持っているといったPRをしてほしいという意見がありました。あと学生の立場としては、少しでも値段が下がると支払いやすいのもう少し家族割引があるということを宣伝していただければと思います。

テーマ3の『どのようなNHKであってほしいか』という内容については、確かな情報で信頼感のある局といった部分はこれからも守ってほしいという意見が出されました。それに遊び心をプラスしていただけるといいなと思います。今放送されているバラエティーもおもしろいけれど少し無理をしているのがわかる番組もあります。若い人に見てもらうためにはいいのかもしれませんが、やはり民放にはできないマイナーなことも取り上げるようなNHKであってほしいという結論になりました。

【Cグループの学生代表者による発表】

テーマ1の『NHKへの接触者率について』は、民放のほうが気楽なので民放を見るという人が多かったですが、その上で私たち20代がどうしたらNHKを見るようになるか考えてみました。まずはネットの開拓です。パソコンのホームページは充実しているようですが、私たちの多くが接触するのは携帯です。通勤通学中の交通機関では、パソコンでネットを簡単に見られないので、携帯のホームページを充実させて、通勤通学中の交通機関でのPRをもっと増やすべきだと思います。また、やはり硬いとか興味がないので見ないから、私たちの世代が興味を持ちやすいように楽しい語学番組を制作したり、番組に魅力的な出演者を起用したりすればいいのではないかという意見もありました。またCMもたくさん放送されているようですが、内容がしっかりと伝わらず魅力も伝わってこないのもっとわかりやすくするべきではないかという意見が出ました。

テーマ2については、受信料は高いのではないかと、また、現在は他のメディアは無料で情報を得られるのに何で払わなくてはいけないのかといった意見が出されました。さらにまったく見ていないのに払わなくてはいけない理由もわかっていませんでした。それがオ

オリンピックやワールドカップの放送権料がものすごく高いということや、教育番組をはじめNHKにしかできないことがたくさんあるということがわかって受信料は払わなくてはいけないなど感じました。また、自分たちがNHKをどれだけ頼っており必要としているかもわかってきました。受信料について、視覚的に私たちの世代でも受け入れやすいように説明をしてもらいたいと思います。もう一つ、私の実体験でもありますが、徴収に来られるスタッフの方が怖いという印象があります。割引などの説明もなく、きちんと指導をしていただければ、もっと払いやすくなるのではないかという意見がありました。

最後の『どのようなNHKであってほしいか』については、やはり硬いイメージがありますが、それは逆に言えば、しっかりしているとか信頼できるということでもあるので、「ためになり勉強になる番組」を今のように続けていただきと思います。また民放ではできないようなハイクオリティな映像や内容が信頼できる番組を作ってほしいという意見もありました。ただ、NHKを見るきっかけとなるような気楽でゆるさのある番組という思いもあり、夜の時間帯ではなく私たちが見やすい時間帯にもそういった番組を放送していただきたいと思いました。

【Dグループの学生代表者による発表】

このグループでは、1週間のうちNHKに5分以上接触している人は半分しかいなくて、NHKに対する知識も乏しい人が多かったのですが、テーマに限らずNHKはPR不足だという意見が出されました。それは番組も受信料のこともどちらにも言えることです。特に受信料については、一人暮らしの学生に対する家族割引の半額措置がされているという話を全員知りませんでした。また、受信料という名前が硬く、名前を変えたほうがもっと接しやすくなるのではないかという意見も出されました。またネットを利用することが多い僕たちの世代にとっては、受信料という名前自体に違和感があり、それが疎遠になっている原因ではないかという意見もありました。あと提案として、総じてNHKにしかできないことを期待しているし、してほしいと言いました。具体的にはバラエティ番組を増やすのではなくアメリカンフットボールなどのマイナースポーツを取り上げるような民放ではできないような番組を制作すること。そして教育番組やドキュメンタリーに力を入れてもっとPRをうまくやってほしいといった意見が出されました。

《自由質疑応答》

【参加学生】

毎朝ラジオを聞きながら、学校に行く用意をしています。ラジオの番組は年配の方向け

のものが多く、私たち世代向けではないものが多いように感じるのですが、番組の構成などはどのように考えていますか。アンケートを取るなどされているのでしょうか。若い人向けにラジオ番組を作るならどういったことを取り入れようとするのかお聞かせください。
(塚田理事)

NHKのラジオ第1放送と聞くと、どうしても『ラジオ深夜便』を思い浮かべる方が多く年代の高い方がラジオをゆっくりと聴くというイメージですが、実は若い人にもぜひラジオを聴いていただきたいと思っています。音声はコミュニケーションのツールとして非常に率直に伝わりますし、テレビだとカメラなどがあっていろいろと大仕掛けになるので、もっと身軽にいろんなことを発表しあえるのがラジオだと思っています。今、東京では青山学院大学のキャンパスの一角にスタジオを作って、そこから若者向けの番組を放送したり、週末の夜にはさまざまな取り組みをしております。ぜひ具体的にこんな番組がほしいといったような声を聞かせていただければ、参考にしたいと思います。

【参加学生】

今40代の社会人学生です。NHKスポーツのテーマソングについてお尋ねします。民放にしても30年間、まったくテーマソングが変わっていません。あれをもう少し今風にアレンジしてカッコよく変えることはできないのでしょうか。

(塚田理事)

変えてはいけないことはなくて、長年親しまれているので使っているものもあります。スポーツ番組も最近は冒頭にテーマソングから入らず、そのときの状況を言葉で伝えたあと、音楽が流れたりといろいろ工夫しているところです。また検討したいと思います。

【参加学生】

僕は来年、就職活動なのですがNHKではどんな人材を募集しているのでしょうか。

(八幡理事)

NHKの場合は、記者、ディレクター、技術、アナウンサーなど職種によって適性が違うということがあります。例えば、記者志望であれば、やはり世の中の真実をどう見抜いていくのかが問われ、物事を突き詰める意識が求められると思います。ディレクターであれば、世の中に自分の考えをどう伝えるのか発想していく力が必要だと思います。日本でも世界でもきちんと世の中を見て問題の本質や感動を表現できることが大きなキーワードでもあると思います。

【参加学生】

時間ごとの編成について実際はどうなっているのかというのがあります。結構、昔からやっている番組をそのままの時間帯でやっているのも多いのであれは変えられないのでしょうか。

(吉国理事)

いろんな人たちの生活時間帯を調べて、できるだけ見てもらえるように番組を出しているという考えは変わっていませんが、番組の編成はかなり変わってきています。今回朝のドラマの時間帯を動かしましたが、視聴習慣に影響しますので配慮していかなくてはな

りません。先月、旭川の「視聴者のみなさまと語る会」で出たご意見で、教育テレビのラジオ体操の放送開始時間を5分動かしたことで困っているというご意見がありました。そうしたご意見がありましたら参考にさせていただきたいと思います。

【参加学生】

NHKでは、特定の商品にサービスはしないような工夫がされていると思うのですが、昨年紅白歌合戦においては、他局の宣伝になるようなことや映画のPR効果があったのではないかと思います。そういった点についてはいかがでしょうか。

(吉国理事)

例えば、昔は催しものを行っているデパートの名前を言わないことがありました。それから会社のインタビューのとき、会社名は出さないこともありました。しかし、必要な情報を出さないことや皆さんが興味をもっていることを過剰に抑えてしまうのは、好ましくないというのが今の判断です。節度を持ち必要な情報は伝えていくことは必要じゃないかと思っています。

(塚田理事)

別の角度で紹介します。6月に環境キャンペーンを日本テレビといっしょに行います。関西でいうと読売テレビです。日本テレビのパーソナリティーは加藤清史郎君で、NHKの環境キャンペーンパーソナリティーの藤原紀香さんといっしょに記者会見を開きました。これは、環境についてできるだけ広く知ってもらうためにNHKを見ている人にも読売テレビを見ている人にも知るきっかけにしてもらいたいという思いで積極的にいっしょに進めていきます。

《経営委員のまとめのあいさつ》

(井原委員)

きょうの大学での意見聴取でひそかに願っていたことがありました。今、教育テレビで人気を呼んでいる『ハーバード白熱教室』という番組がありますが、あのよう学生さんから自由で多様な意見をいただきながら議論が深まればいいなと思っておりました。議論の中で、若い方のNHKへの接触のあり方、受信料についての考え方、あるいは公共放送のあり方についてご意見がいただけことをたいへんうれしく思っております。NHKのよい点、悪い点をしっかり評価して、少し言い方を変えればSWOT分析に基づくような形でご意見を言っていただきました。とりわけ印象深かったのは、NHKはいつのまにか空気のような存在になってしまっているのもっと前に出て積極的に公共放送の役割は何なのか、受信料はなぜ必要なのかといったことをわかるように説明することが必要ではないかというご意見をいただきました。いただいたご意見を大切にしながら今後もNHKの業務運営に執行部の皆さんともども頑張っていきたいと思っております。

(大滝委員)

きょうは皆さんのお話を伺って特に3つ感じました。1つは、皆さんにNHKのことがなかなかうまく伝わっていないという実感を非常に強く持ちました。例えば、受信料のことや受信料の割引のしくみのこと、あるいは、最近始めているNHKオンデマンドのことなど本来ならばもう少しきちんといろんな形でうまく皆さんに伝わっていただければならないにも関わらず、伝わっていないという思いが非常に強くしました。

2つ目は、多くの皆さんがNHKの持っているよさや魅力について一定の評価をいただいていることがわかりました。例えば、クオリティーの高い番組を作っているとか、NHKを見ていると安心感があり信頼感はそのから生まれてくるといったようなことです。それを私たちは、きちんと自信をもってこれからも仕事をしていく必要があると思います。

3つ目は、最近若い人たち向けに『サラリーマンNEO』や『着信御礼！ケータイ大喜利』といった番組を作っています。でもこの評価は、半分の方はおもしろいと言っていたのですが、半分の方はNHKは無理をしているのではないかという非常に辛らつな評価がありました。NHKとしても多分皆さんにアプローチしていくことについては途上にあるのではないかと考えています。もう少しいろんな試行錯誤をしながら、皆さんに無理をしていると感じさせないような素直な番組をきちんと作っていただけたらいいのかなと感じました。

(桑野委員)

私もやはり皆さまのもとにNHKからの情報が届いていないことや説明不足、PR不足であることを改めて痛感いたしました。同時に学生の皆さんの言葉がとても魅力的で、グループディスカッションでも、発表でも豊かな表現力があると思っておりました。私どもが忘れていたという変なのですが、ほんとうに気付かなかった重要なことをきょうは学生の皆さんに教えていただきました。これからも皆さまからいただいた声をしっかりと生かしていきたいと考えております。

(野間委員)

きょう、私が非常に印象に残ったことは3つあります。一つは公共放送NHKとして民放と競走するのではなく民放とは違ったNHK独自の番組やNHKにしかできない立場を守ってほしいというご意見です。これは4つのグループ共通のご意見として受け止めました。そして、その生活に欠かせないという公共放送の役割をしっかりと宣伝してほしいとのことでした。

2つ目は、子どものころ見ていた教育テレビの番組を大人になって見てもやはりおもしろかったので、いい番組は続けながら新しいことも取り入れてほしいといわれました。NHKの福地会長も、変える勇気と変えない勇気が必要ということをいわれます。

3つ目は、Dグループの中でマイナーなスポーツやバレエなど専門的なジャンルの番組を増やしてほしいというご意見がありました。その根底にある考え方は、多様なジャンルの番組を出すことによって視聴者の皆さんにとって興味の幅が広がるということだと思います。これも非常に心に残ったご意見でした。

きょうお会いした学生の皆さんは、自分自身の考えをしっかりと持っておられました。しかも番組を素直にしっかりと見てくださっていることがとてもうれしく思いました。日本の将来を非常にたくましく思い、あたたかい気分になりました。ありがとうございました。

〈ミーティング終了後の経営委員の感想〉

- ◇受信料体系や割引制度、NHKオンデマンドなどのサービスについて学生に正確に伝えられていないことを痛感しました。今後はテレビ以外のパソコンや携帯電話などを通じて、若年層にNHKのことを正しく伝える努力をもっと行う必要を感じました。
- ◇NHKの公共放送としての価値や番組のクオリティーの高さ、またNHKのもつ安心感や信頼感については学生が一定の評価をしていることが確認できました。こうしたNHKの持つ価値やよさは大切にしていきたいと思います。
- ◇『サラリーマンNEO』や『着信御礼！ケータイ大喜利』など若者向けの番組に関しては、一定の評価を受けた反面、NHKは少し無理をしているのではないかといった感想も聞かれました。若年層もそれなりに厳しい目で番組を見ていることを確認することができました。
- ◇最近の学生は多忙のためテレビの前に座ってじっくりと番組を見るという生活スタイルではなくなり、生活の中ではストレスを抱え、番組に笑いやバラエティーの要素を求める傾向が強いことがわかりました。こうした生活スタイルの変化に合った番組を制作していく必要があります。
- ◇学生の皆さんは、子どものときに見ていた番組の印象をNHKの基本として考えており日々の報道や番組に信頼感を持っているなど、それぞれ自分のNHK感を持っていることがわかりました。
- ◇視聴者の皆さまの公平な受信料の負担によって公共放送が成り立っていることをもっと社会の中で伝える工夫が必要だと思いました。
- ◇会場の雰囲気はすばらしく、気持ちよく会を進行できました。参加人数も一人ひとりの学生の意見をじっくりと聞くには適切な人数だと思いました。時間帯も学生の授業時間や参加しやすさを考えれば適切だったと考えます。
- ◇今後、「若い方＝大学」という組み合わせだけではなく、多様なやり方で開催してもよいのではないかと思います。そのうえで開催規模など検討したほうがいいと思います。
- ◇学生一人ひとりから意見を聞けること、また私どもが直接答えられるグループディスカッション、まとめ・発表という流れは、短時間で有効であると思います。
- ◇学生を対象とした会には初めて参加して新鮮な印象を持ちました。学生を中心とした若年層がNHKについてどんな印象を持っているのか多面的に知ることのできる機会でした。こうした学生などを対象とした会は、首都圏や関西圏以外でも実施する意義のある

ことだと思いました。

- ◇学生が自ら挙手をして積極的に自分の意見をはっきりと述べる姿は好ましい印象でした。10名以下の人数でグループごとに意見を集約するやり方はたいへん効果的であると思います。グループの学生代表の発表もまとめ方が上手なことに感心しました。
- ◇大学生以外の50代以下をターゲットにして企画型の会を拡大していくことも必要であると考えます。特に中高生や30代40代の視聴者をターゲットにする機会があってもよいのではないのでしょうか。また、番組や経営全般の意見を広く聴取するのではなく、『NHKオンデマンド』や『3-Screens』などテーマを限定した会も検討したらいいのではないのでしょうか。
- ◇ふだん意見聴取しづらい学生の率直な考えや要望を聞くことができ、有意義でした。最も印象に残ったことは、受信料制度について理解が不足していましたが、説明をするとすぐに認識いただけたことです。その意味で受信料の支払い方法などに止まらず制度そのものの説明を工夫する必要があると感じました。
- ◇この企画の会場として学内の会館は、ふさわしい会場でした。グループディスカッションを滞りなく実施できるスペースもあり最適でした。
- ◇今回と昨年度の武蔵大学の経験から「語る会」の趣旨に照らすと、学生対象の場合だけでなく、適宜グループディスカッションや円卓形式を取り入れることも有効ではないかと思えます。

<当日会場アンケート集計結果>

1. 性別

男性	女性
13	19

2. 年齢

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	40代
男性	1	1	6	4	0	1
女性	0	0	15	2	1	0

3. 今回のイベントを何でお知りになられたのか。

放送	ホームページ	チラシ	人から聞いて	その他
1	7	0	12	12

※その他の回答・・・大学のホームページ・大学の掲示・ゼミ

4. 今回のイベントに参加していかがでしたか。

①たいへん満足	②満足	③ふつう	④不満	⑤たいへん不満
14	17	1	0	0

5. 一番印象に残ったコーナーはどこでしたか（複数回答）

①経営目標などの説明	②グループディスカッション	③自由質疑コーナー	④アトラクション
1	23	1	4

6. NHK経営委員会の仕事を知っていましたか

①大変よく知っていた	②よく知っていた	③知らなかった	④その他
1	1	30	0

7. イベントに参加して、NHK経営委員会の活動について理解が深まりましたか

①理解が深まった	②特に変わらない	③わからない	④その他
32	0	0	0

<当日会場アンケートに記された主なご意見（抜粋）>

- ◆この会に参加するまでは、「NHK＝かたい・まじめ」というイメージで少し不安がありました。しかし、いろいろな人の意見やお話を聞くなかで、「NHK＝しっかり」なのだと感じました。災害や天気予報などしっかりと情報を伝える一方で、『鶴瓶の家族に乾杯』などざっくばらんな一面もあります。これからもNHKはしっかりと正確な情報を伝えながら地域情報やお笑いなどいろいろなものを取り入れてほしいと思います。
- ◆グループディスカッション自体は有意義なものでしたが、大人数で一問一答になり人数が少し多いと感じました。人数は、半分くらいがちょうどよいのではないかと思います。
- ◆私は立命館大学の学生なので立命館大学でも開催していただきたいです。時間帯はきょうの時間がちょうどよいと思います。『トップランナー』については、観客の笑い声が民放のバラエティーのようなので少し抑えたほうがよいと思います。
- ◆お話を伺ってNHKに少し興味がわきました。これからはもっと見ていきたいと思います。
- ◆視聴者・国民とともに作り上げていこうという姿勢がとてもよく伝わってきました。このような機会はこれからもずっと続けていただきたいです。冒頭の経営委員の説明が少し早くて理解ができない部分がありました。それがとても残念です。しかし最初から最後まですべて興味深く参加してほんとうによかったと思います。またぜひ参加したいと思っています。
- ◆このミーティングはとても有意義な時間でした。
- ◆理不尽な要求をつきつけられてほんとうにたいへんだなと思いました。もしかしたら社会全体がそういった動きになっているのかもしれませんが。社会人になったら理不尽な要求をつきつけられることを覚悟しています。
- ◆受信料の支払率が100%となることを願っています。ぜひ次回も参加させていただきます。
- ◆NHKはどうして再放送が多いのですか。
- ◆若手社員の意見は聞いているのでしょうか。同じメンバーからは同じ考えしか生まれないので、NHK経営委員会の構成も変えてみてはどうでしょうか。
- ◆『ハーバード白熱教室』や『めざせ！会社の星』などは非常におもしろいので、よい番組を作り続けてほしいです。
- ◆『トップランナー』のプロデューサーの方との質疑応答をもっと充実させてほしかったです。
- ◆現場の生の声が聞けたことがたいへんうれしかったです。若者向け番組の取り組みを応援しています。『サラリーマンNEO』大好きです。
- ◆番組1つひとつのPRをもう少しインパクトが残るようにしたほうがよいと思いました。
- ◆おもしろい番組はたくさんあるので、過去の番組がインターネットでもっと見られたり、レンタルショップで借りられたらもっとNHKのPRにつながるのではないかと思います。
- ◆大学卒業後は、教育テレビの『天才てれびくんMAX』の番組制作に携わりたいです。